

大正二年四月

局
1913
P1

かわ

淡水河ノ洪水ニ關スル調査

臺灣省水利局規劃總隊

編號：01-03-04-002-001
1953-06

備註：



水利局河川治理規劃總隊資料室

名稱	
編號	03-04-0018-02
備註	

水利局測繪組水文課		
資料名稱	編	號
水文	第2冊第127號之	
民國42年6月29日登記		

淡水河、洪水ニ關スル調査

淡水河ノ調査ハ明治三十年ヨリ若干着手セラレシ未ダ充分ナル材料ヲ得ル能ハサルモ現在ニ於テ蒐集シ得可キ材料ニヨリ淡水河洪水ニ關スル必要状態ヲ次ノ如ク推斷記述シテ以テ後日調査ノ基礎トナス。

一 淡水河流域ト最大流量

蕃務本署ノ測定セル貳拾萬分一圖ニヨリ淡水河流域ヲ算スルニ

大嵙崁川(大嵙崁迄)

六一。五平方里

新店川(新店迄)

四五六七平方里

景尾川(景尾迄)

八四八平方里

基隆河(錫口迄)

二一二二平方里

台北平原(關渡迄)

三六五五平方里

乃チ關渡迄ノ流域ヲ算スレバ百七拾二平方里九七トナル。

而チ最長流線ハ滬尾ヨリ大嵙崁川上流大霸尖山ニ至ル迄延長三拾四里七二ナリ。

淡水河流域中各所雨量ヲ檢スルニ一年中ヲ通シテ最モ多量ナル暖暖街
 五二二四九九耗 ボンボン山五一九二。耗ニシテ角板山之ニ亞グ然ルニ毎年八九
 月ノ候ニ至リテ俄^{カニ}多量ナル角板山ノ一四六五。耗八月ヲ最トシボンボン山ノ一四
 四。耗九月リモガンノ一三八〇九。耗九月之ニ亞グ是ニヨリテ之ヲ見レバ多量ノ雨ヲ帶ビ
 ル氣候風ハ山脈ノ為メニ遮^{ラレ}テ墜下スルヲ明ニシテ洪水ハ實ニ此種類ノ雨ニ基因
 スルモノト知ルヘシ

淡水河ノ既知最大洪水量ハ每秒時三十六萬四千立方尺ニシテ假リニ其流域
 リ其流下雨量ヲ推算スルニ一日ノ量ハ

$$\frac{24 \times 60 \times 60 \times 364000}{17297 \times 36 \times 360 \times 36 \times 360} = 1.08314 = 0.3282^*$$

即チ三百二十八耗ニシテ一時間ノ量ハ拾三耗七ナリ假リニ其降雨七割ガ有效ニ流下スルモ
 トセバ其總量ハ拾九耗六トナル又新店川ノ既知最大洪水量ハ每秒時拾七萬八千

立方尺ナルヲ以テ前同様流下雨量ヲ計算スレバ一日ノ量ハ

$$\frac{24 \times 60 \times 60 \times 178000}{4567 \times 36 \times 360 \times 36 \times 360}$$

$= 2.002 = 0.607^*$ 即チ六百。七耗ニシテ一時間二十五耗ニ該當シ前ノ如ク總量ノ七割トスレ

ハ總量三十六耗一トナル流量ハ流域面積ニ反比例スルガ故ニ二方里當淡水川ノ流量
 其部分ナル新店川^{ニ比シ}比シ少ナルハ勿論ノ事ナリ又其流域中ノ雨量ハ山地ハ一般

二平地ヨリ遙カニ多量ニシテ昨年ノ如キ一日ノ最大雨量ハバロン山ニ於テ六百四十六耗台
 北ニ於テ二百八十七耗ナルヲ如ク一定ノ率ヲ以テ論シ難ク未ダ其詳細ナル統計ニヨリ
 テ之ヲ證明スルコト能ハサルモ平地ナル台北ニ於テ尚一日ノ最大雨量ハ二百八十七耗三對
 レ同日一時間ノ最大雨量ハ三十七耗ナルコト又新店川ハ新店ヨリ坪林尾マデノ
 河底ハ尚約二百五十分ノ急勾配ヲ有シ大料坎溪ハ石門ヨリ上流拾里間尚
 約百五十分ノ急勾配ヲ有スルニ徴シ其洪水量比較的大ナルハ合理的ニシテ其ノ
 誤謬ナキコトヲ想像スルニ難カラズ

順序上其平均流量ヲ記サニ淡水河ニ於テ一潮時十二時二十五分間ニ上下セル水量
 明治三十二年十月下旬ヨリ同三十三年一月上旬ヨリ滬尾於テ測定セル所ニヨレバ

流下量

上潮量

差量

七二六八六九一〇〇 立方尺

四六五三一六〇〇〇 立方尺

二六一五五三一〇〇 立方尺

更明治三十三年十月十一日ヨリ二十八日迄関渡ニ於テ測定セル所ニヨレバ

流下量

上潮量

差量

七〇六四七七〇〇〇 立方尺

四三九六一三〇〇〇 立方尺

二六六八六四〇〇〇 立方尺

ニシテ前後共大差ナリ其大要ヲ知り得可ク差量即ケ河水流下量ハ

$$726.869/100 - 465.316/100$$

$$= 584.906 \text{ ㊦}$$

毎秒平均五千八百四十九立方尺ナリ

$$60 \times 60 \times 2 \frac{1}{2}$$

假リニ淡水河ノ平均流量ヲ新店川ノモト同單位ニテ其流域内山地面積ニ比例スルモ

ノトシテ計算スル

$$(6105 + 45.67 + 848 + 21.22) \times 2500 = 8198.3$$

$$41.60$$

即ケ八千百九十八立方尺ニナリトス前ニ算出セル五千八百四十九立方尺ニ比シ約三割
八分ノ増加トナル

元來新店川ハ淡水河流域中平水量ノ最も多キ支流ナレバ是ヲ元トシテ計算

スルハ其結果ハ多キニ過クル嫌アリ又明治三十二年十二月ノ雨量四十二耗四明治三

十三年十一月ノ雨量ハ六拾耗ニシテ之ヲ台北平均雨量ノ月割量約百七拾

一耗九ニ比スレバ少ナリ從フテ此期間ニ於ケル流下量ハ平均流量ニ比シ少ナルベク結局

淡水河ノ平均流量ハ毎秒六千乃至八千立方尺ト假定シテ大差ナタルベキナリ

新店川ノ平均流量ハ約二千五百立方尺ニシテ洪水量ニ比シテ七拾分ノ一

又其最小流量ハ約五百立方尺ニシテ洪水量ニ比シテ約三百五十六分ノ一ナリトス

其詳細ハ附圖ニ示セルガ如クニシテ即ケ

其流域内雨量ハ附图第一號ニ新店川流量ハ第二號ニ洪水水位ハ第五
 六、七號ニ洪水流量ハ第八號ニ示スガ如シ
 洪水流量ハ流域流長雨量勾配地形及風向等ニ最モ多ク關係スルモノニシテ
 其詳細ハ知ルニ由ナキモ上記ノ内重要ナルモノヲ取リ他ノ例ニ比シテ列記スレバ

河名	国名	流域 (方里)	流長 (延里)	観測地名	最大流量 個	流域内雨量 観測地名	一年雨量 (耗)	最大雨量 (耗)	備考
淡水河	台灣	一七五〇〇	三四七二	滬尾迄	三六四〇〇〇	二二〇四	ボシボン山 (平均) 五一九二	二五二	
新店川	台灣	四一六〇	八二〇	屈尺迄	一七八〇〇〇	四二七九	バリオン山 (平均) 五二二三	六四六	
日本									
荒川	埼玉	二〇二八三 (一〇二二八)	四五五	東京市	二〇〇〇〇〇〇	九八六	熊谷 (平均) 一三三八	一七四	六流域地素大
高梁川	備中	一六一〇〇 (一三七九三)	二八二	岡山縣 連島村	二五〇〇〇〇	一五五二	岡山 (平均) 一二〇九	一七七	
木曾川	美濃	五八九七〇 (四五五〇七)	五八八	三重縣 曾島村	二六四〇〇〇	四四八	名古屋 (平均) 一七六六	二四〇	
揖斐川	美濃	二四七八〇 (一八八〇七)	二八二	全 城南村	一五〇〇〇〇	六〇五	岐阜 (平均) 二〇八一	二五七	

河名	国名	流域 (方里)	流長 (英里)	観測地名	最大流量 值	流域平方里 宛年	流域雨量観測地名	年雨量 (耗)	一日中最大雨量 (耗)	備考
吉野川	高知	二四〇・三〇 (二〇九四三)	六〇・四	徳島縣 松茂村	四〇〇・〇〇〇	一六六五	徳島	(平均) 一七七一	四七一 (二)流域地未	
信濃川	新潟	七九四・七〇 (五三六六〇)	九四・〇	新潟市	二〇〇・〇〇〇	二五二	新潟 松本	(平均) 一七八四 (平均) 一二六〇	一三四 一三二	
北亞米利加										
Ohio	北米合衆國	三五九・三四九	二八三	Cairo	七〇・〇〇〇	一九	Huntville	(最大) 一三九四		オハイオ河支流 一万里宛流量 最大七九七・一
Youngblood -ing	米合衆國	一三三・三八		山地 Confluence	四六・〇〇〇	三五・〇				
歐羅巴										
Jurell	英吉利	三五・五七	七・八	Salford	二四・〇〇〇	六七五	Hastingsdon	(最大) 一七二・〇		歐洲於流量 值ノ多キモノ
Nene	英吉利	一〇四・一六	一九・三	Peters borough	一・〇〇〇	七七	Welling- borough	(最大) 六三三		流域似リ凡平
Severn	英吉利	三四四・四〇	二九・五	Worcester	四〇〇・〇〇〇	一二六	Birmingham	(最大) 六四五		英國ニテ流量 多キモノ
Thames	英吉利	五二八・四五	三〇・八	Staines	一四・七九四	二九	Oxford	(最大) 六九一		著名ナリ川
Rhone	伊太利	五〇四・〇〇	四六・七	Geneva	一八・四二七	三六	Geneva	(最大) 八二八		"
Tiber	伊太利	一〇八四・九四	五五・六	Rome	六〇・四九二	五六	Rome	(最大) 七七二		"

河名	国名	流域	流長	観測地名	最大流量	流域二平方 里宛	流域内雨量観測地 名	一年雨量 (耗)	一日中最大雨量 (耗)	備考
Rhine	獨逸	二六八.〇〇	七二五	Strasbourg	一六四.七〇〇	六一	Metz	六五八 (最大)		著名ル川
Seine	佛蘭西	二八七.四六五	六二三	Paris	六三.五六四	二二	Paris	五八七 (最大)		"
Rhone	佛蘭西	三〇.二四〇.〇	七五九	Lyon	二〇.五五〇.〇	六七	Lyon	七九五 (最大)		"
Danube	オーストリア ハンガリー	五四八.九三三	四一〇.〇	Budapest	一〇〇.〇〇〇.〇	一八	Gratz	七九二 (最大)		"
Neper	埃太利	四七.七一	九八	At the Weir	五五六八五	一一六八	Neper basin	一一九九 (最大)		歐洲ニ於ケル流量 ノ多キモノ
印度										
Burda	印度	一二七.六八	一三一	山地 Duckmully	六〇.〇〇〇	四七.〇	Bangalore	九一五 (最大)		流域精細ナル
Ramganga	"	二六八.八〇	二六五	山地 Kalagarh	三一〇.〇〇〇	一二五三				"
Ganges	"	一六四.六四〇	五七二	山地 Hard war	六一〇.〇〇〇	三七一				"
Ganges	"	六二八.八九六	三七五.〇	Rajmahal	一八〇.〇〇〇.〇	二九	Nainital	二二六 (最大)		流域ノ大ナル
Periyar	"	五一.二四	七九	Irrigation Reservoir	一二五.〇〇〇	二四四.〇	Cochin	二九二 (最大)		流量相ノ大ナル
Sumapoomy	"	九八.六二	一四.三	Palamcottah	一八九.〇〇〇	一九一七	Quilon	一九六一 (最大)		"
Trunani	"	二五一六.二五	三〇.一四	Prome	一九〇.〇〇〇	七六	Cherra poongie	九三五七 (最大)		雨量ノ大ナル

前記表ヲ見ルニ流域一平方里ニ對スル最大流量ハ其流域ノ大サニ反比例シ
テ雨量ヨリ直ニ之ヲ定メ難キモ概シテ云ハ歐米ニ於テ一々年ノ雨量ノ千耗ヲ
超ヘ又流域一平方里ニ對スル最大流量百平方尺ヲ超スルモノハ僅少ニシテ印度於
テ一々年ノ雨量最大九千耗ヲ超スルモノアルニ不閉流域ノ小ナル者尙ホ其ノ平方
里ニ對スル最大流量二千四百四十立方尺ニ過ギス日本ニ於テ雨量ノ比較的
大ナラサルニ流域一平方里ニ對スル最大流量約千五百立方尺ニ達スルモノアリ
日本ニ於ケル洪水量決シテ小ナリトイフ可カラズ然レモ一々年最大五千百耗餘ノ雨
量ヲ有スル淡水河ノ支流新店川ニ於テ流域一平方里ニ對スル最大流量四千
貳百餘立方尺トナルヲ見レバ臺灣河川ハ尠クモ治水ヲナスニ最モ困難ナル位
置ナルヲ知ルニ難カラズ

二 近年ノ洪水ニ於テ大槓埕附近ノ河底ハ隆起シタルヤ

此ノ問題ヲ解決センガ為メ其材料ヲ量水位ノ統計ト河ノ横断面面積トニ徴
シトス而シテ此ノ問題ヲ解決スルニ要スル量水位ハ寧ろ口低水位ナルモ念ノ為メ高
低兩水位ヲ示サンニ

平均高水位

(毎日二回ノ高潮水位ヲ
取リ之ヲ平均シタルモノ)

觀測時	油車口	閑渡	渡仔頭	河溝頭街	備考
自明治三十一年五月 至今 三十三年四月	一。四。四九 ^尺	一。四。四九 ^尺	(一。五。一七 ^尺)	一。五。六。〇 ^尺	水位基点ハ土地調查局水準基 点ヲ一。〇。〇。トシテ計算ス
自明治三十六年十月 至今 四十一年十月	一。四。三八	一。四。六。〇	(一。四。六七)	一。四。七。二	(一)閑渡渡仔頭間ノ流心距 離ヲ二万五千六十九尺河溝頭街渡仔 頭ノ流心距離ヲ一万二千五百五十尺トシ テ距離ヨリ高サヲ推斷シタルモノ
自明治四十一年五月 至今 四十三年四月	一。四。四三	一。四。四九	一。四。五八	(一。四。六四)	
自明治四十二年五月 至今 四十三年四月	一。四。一七	一。四。四九	一。四。五七	(一。四。六二)	
自明治四十三年五月 至今 四十四年四月	一。四。一二	一。四。三八	一。四。四三	(一。四。四六)	

平均低水位

(毎日二回ノ低水位ヲ取リ
之ヲ平均シタルモノ)

觀測時	油車口	閑渡	渡仔頭	河溝頭街	備考
自明治三十一年五月 至今 三十三年四月	九。六。四五	九。七。七八	(九。九。九三)	一。一。二。四	(一)距離比例ニヨリ推算シタルモノ
自明治三十六年十月 至今 四十一年十月	九。六。四二	九。八。二九	(九。九。七八)	一。〇。〇。六九	
自明治四十一年五月 至今 四十三年四月	九。六。六一	九。七。六五	九。九。六九	(一。〇。〇。九三)	
自明治四十二年五月 至今 四十三年四月	九。六。四八	九。七。七五	九。九。七六	(一。〇。〇。九八)	
自明治四十三年五月 至今 四十四年四月	九。六。三一	九。七。八二	九。九。七五	(一。〇。〇。九三)	

以上ノ表ヲ比較スルニ大体ニ於テ大差ナク河溝頭街低水位ノ最低ナルモト近年低水位ノ差貳寸九分ヲ出テス四拾四年春迄ハ河底ニ大ナル変化ヲサハルト見テ得ヘシ尚ホ四十四年及四十五年洪水際シ渡仔頭ニ於テ量水標ヲ失シ一年ヲ通シ平均水位ヲ知リ難キモ十一月ヨリ四月マデ六ヶ月ノ低水位統計完全ナルヨリ之ヲ前後比較スルニ

觀測時	油車口	閘渡	渡仔頭	河溝頭街	備考
自明治四十一年十一月至全四十二年四月	九六四六	九七四七	九九八八	(一〇〇・一三)	
自明治四十三年十一月至全四十四年四月	九六〇六	九七三三	九九四二	(一〇〇・七〇)	
自明治四十四年十一月至全四十五年四月	九五九七	九七四七	九九五〇	(一〇〇・七六)	
自明治四十四年十一月至全四十五年四月	九六一六	九七五七	一〇〇・〇六	(一〇〇・五九)	河溝頭街前年トノ差減一寸七分
自大正元年十一月至全二年四月	九六九〇	九七六四	一〇一・〇八	(一〇三・一八)	河溝頭街前年トノ差増二尺五寸九分

元來河溝頭街ト閘渡ト同時ニ量水セシメナキヲ以テ閘渡渡仔頭間ノ勾配ヲ推シテ河溝頭街ノ水位ヲ推断セシメハ多少ノ誤謬ヲ來ス恐レルヘキモ假リニ之ヲ

リテ推スルニ大正元年ノ洪水後於テ其平均低水位ヲ高メタルケ如シ。

故此每年半季間ニ於テ其流下量相等シ又川幅等相等シトスレバ大正元

年洪水後渡仔頭附近川底壹尺餘隆起シタリト見ルベシ

更ニ大稻埕附近ニ於ケル川底高低變化ヲ見シガ爲メ明治三十五年五月ヨリ明

治三十三年四月ニ至ル平均高水位ヲ水位トシ川相當断面面積ヲ測ル結果ヲ得

町	別	時	平均高水位時上幅 (尺)			平均高水位以下断面面積 (立方尺)			平均高水位時平均深 (尺)		
			明治三十五年五月	明治三十四年五月	大正元年九月	明治三十五年五月	明治三十四年五月	大正元年九月	明治三十五年五月	明治三十四年五月	大正元年九月
西	里	—	一五八七	一六〇〇	—	一二五五五	一四三四三	—	七九一	八九一	—
四	里	二町	一一二三	一一五九	一一二三	九三六二	九七五〇	一五二二二	八三三	八四〇	一三〇七
四	里	四町	一一三五	一一四六	一一三五	一一三三五	一〇三八二	一四六五七	九九七	九〇六	一一九七
十二	町	—	九四〇	一〇五六	一一二三	七一七八	六六八八	七三二七	七六三	六三三	六五二
十六	町	—	九六〇	一〇〇八	一〇五六	七八八四	七六一七	六二八三	八二一	七五五	五九五
合	計	—	四一五八	五九五六	六〇三七	三五七五九	四六九九二	五七八三二	三四一四	三九二五	三七四二
平	均	—	一〇四〇	一一九一	一二〇七	八九四〇	九三九八	一一五六六	八五四	七八五	七四八

以上ノ数字ヲ對照スルニ大稻埕附近ノ水面幅断面面積平均深ハ各年ヲ増スニ從ヒ

其數ヲ増シタルガ如シ詳言スルニ一定ノ同一水面ヲ基面トシテ計算シタル断面教増ス

ト及平均深ヲ増スハ勾配ニ大ニ變化シテ同一流量ニ對シ年々河底侵蝕シタル意

味トナル

此ノ測量比較ハ同箇處ニテ同一方向ニ測定シタルモ年々ノ洪水ニ於ケル新店川
及大斜坂川ノ流勢及流量ノ相違ヨリ河底ノ狀況ヲ變ジ從ツテ流心ハ其方向ヲ
變ジ測量横斷ニ對シ流心ハ常ニ同一角度ヲ有セス同一句配同一流量ナル際尚
ホ同斷面積ヲ有セサル場合モアル可ク又障害ノ存在ニ起因スル局處ノ侵蝕時日
相違ヨリ起ル變化即ケ洪水時ニ於ケル最大流速ヨリ河底ハ時侵蝕セラルモ洪
水ノ終リ又ハ平時ニ於テ河底ニ於ケル力ノ平均ヲ保ツ定深ニ達スル迄ハ不絶砂
礫流下シテ河底ヲ埋填スル等種々ノ事情アリ各年ニ於ケル斷面積ノ相違ヨリ
直ニ水深ノ多少ヲ斷言シ難キモ少クモ此附近ノ河底ハ幾分侵蝕サレタル明言得ベシ
以上ノ記載ヲ綜合スルニ大正元年ニ於テ河溝頭街ノ横斷面積増加シ河底侵
蝕ヲ示セルニ渡仔頭ニ於テ量水位ノ隆起セルハ渡仔頭若ハ其下流ニ於テ河底一部
凸起ヲナセル影響ト見ルヲ待可ク表示セル如ク割渡渡仔頭間ノ句配推シ
河溝頭街及ホシ其水位ヲ計算スルハ誤ニシテ渡仔頭河溝頭街間ハ蓋
シ其以前比ニ緩句配ヲ流下シタル可シ河溝頭街ノ河底侵蝕サレタル結果

延テ渡仔頭又ハ其下流ニ於テ一尺内外堆砂セルモノト想像スルノ誤ナラザル可シ

洪水ニ際シ大稻埕前面ハ一面侵水區域トナリ其有效幅ヲ定ムルコト困難ナカ故

ニ其平均流速ヲ定メンニ先ヅ其動水半径ヲ假定シテ算出ノ外ナシ

明治四十四年九月一日洪水時ニ於テ流速ヲ算出センニ大稻埕最高水位

ニ二九^尺土地調查局基面上ガ平均高潮位四七ニ^シ超スルヲ拾八尺一寸ナレバ其差

ヲ平均有效水深ト假定シ其勾配ヲ最急ナル〇.〇〇四五トシテ頁參照ニクタイ氏

式 $V = C \sqrt{R.S}$ ニヨリ計算スルバ $V = 94.5 \sqrt{\frac{181445}{100000}} = 853$ 即ケ一秒時ノ平均速力

ハ尺五寸三分トナル其平均速力ト河底ヲ侵蝕スル速力ト比ハ之ヲ定ムルニ由ナシ

ト雖モ假リニ半減トスルモ尚四尺二寸六分五厘トナル尚水深ヤ箇處ニ於テハ此以上侵

蝕力ヲ有司ク大稻埕附近ノ細砂河底ハ幾分侵蝕ヲ受ク可ク其程度ハ水位

リ相違アルベキモ兎ニ角一度ハ侵蝕モ洪水末期ニ近クニ從ヒ河底平均ヲ維持スル

可ク流水中ニ含有スル泥砂土ヲ以テ埋没セラルハ明ニシテ洪水先々浚渫シ其斷

面積ヲ大トナシ置クモ次洪水ニ際シ埋没セサルヲ保證スルヲ頗ル難ク從テ其有

效程度モ殆ド認め難キ程ナリ故ニ洪水ニ関シテ別ニ人工ヲ加ヘ浚渫スルノ必要ヲ

見出某河底、狀態ニキテハ自然ニ待ツ外ナシ只舟ノ航行ニ對シテ浚渫ヲ要スル別事ニ屬ス

三、淡水河、閘渡ニ於ケル括縮ノ影響

閘渡ニ於ケル括縮ノ影響ハ二段ニ別テ之ヲ考究ス可シ其一ハ潮ニ對スル影響也ハ洪水ニ際シテノ影響者ニシテ 潮ノ影響日トシテハ先ヅ油車口ト大槓埕トノ潮位

比較ヲ知ラシカ為メ天氣晴朗ニシテ潮ノ高ク起リタル明治四十年八月廿四日陰曆七月十六日明治四十四年七月廿七日陰曆七月廿一日於テ其最高潮水位ヲ摘記スレバ

觀測時	油車口	閘渡	渡仔頭	河溝頭街備考
明治四十年八月廿四日	一。六。三一	一。六。一二		一。六。一。
明治四十四年七月廿七日	一。六。一六	一。六。一六	一。五。八八	

而シテ油車口、閘渡、河溝頭街共其最高水位ハ殆ンド相等シキヲ見ルベシ

更ニ各處高潮位ノ時間

觀測時	油車口	閘渡	河溝頭街	備考
明治四十年八月	二十三日 后土時十分	二十三日 后土時五分	二十四日 前。時四十分	

ニシテ其ノ差一時三十分ナリ。

假リニ関渡ノ切割ヲ施シテ其ノ摩擦ヲ全ク減ジタリトスルモ河溝頭街ニ於テ潮ノ為メ其水位ノ高スル事二寸ヲ出デサルヘシ且フ河溝頭街ニ潮ノ影響スル時

間ノ幾分速ニナル事ニ止マルベシ

尚ホ潮ノ潮流ノ速度ヲ檢スルニ明治三十二年十月ニ於テ測定セル潮流最大表面流速

	油車口附近	関渡附近	河溝頭街	備考
毎分間	百八十尺乃至二百尺	百五十尺	七十尺	
毎秒間	(三尺乃至三尺三寸)	(二尺五寸)	(二尺二寸)	

割ニシテ洪水時ノ流速毎秒拾尺内外ナルモノニ比シテ大ナル影響有テ其水位ニ與フルモノトハナラサルヘシ

故ニ関渡切割問題ハ潮トハ全ク別問題ト考ヘテ差支ヘナシ次ニ洪水時ニ於テ水流ノ関渡口ニ於ケル有様ヲ研究センガ為メ附圖第八號ニ示セル淡水河筋ニ於ケル最高水位ヨリ連絡セル曲線ヨリ案スルニ大正元年明治四十四年ニ於テ大楠埕ヨリ上流ハ兎ニ南関渡中埔間ノ水面勾配ハ中埔大楠埕間ノ水面

句配ニ比シテ急ナリ而シテ関渡上流附近ハ低ク有效ノ断面積ヲ計算シ
 難キヨリ單ニ句配ニヨリ立論スレバ此ノ隆起ハ関渡ノ狹塞ニ起因スルト
 見ルヲ得可シ

從來觀測セルモノ内尤モ顯著ナルモノニテ撰ヒ明治四十四年九月一日及大正元
 年八月廿九日ノ洪水時ヲ考フレバ次ノ如シ

明治四十四年九月一日洪水觀測

大稻埕三井物產前 関渡間	中洲埔庄 関渡間	小八里坌庄 関渡間	大稻埕三井物產前 油車口間	大稻埕河溝頭街 関渡間
洪水流心距離 三〇・二四〇 尺	二五・二〇〇	五・四〇	一一・五二〇	五六・一六〇
各處 最高水位 落差 一〇・一七	七・五〇	二・六七	一・三四	一六・四三
句配 〇・〇〇・三四	(〇・〇〇・三〇)	(〇・〇〇・五三)	〇・〇〇・一二	〇・〇〇・二九
句配ノ比 一・〇〇	〇・八八	一・五七	—	〇・八六
洪水時 最急句配 〇・〇〇・五一	(〇・〇〇・四五)	(〇・〇〇・八〇)		〇・〇〇・三二
備考 最急句配時ハ通常低潮位時ニ先ツ 約一時間最高水位ニ先ツ二時間半	(一)ハ句配ニヨリ算出シタルモノ	(一)ハ句配ニヨリ算出シタルモノ	関渡ノ水位ハ 一一・二五一 尺	大稻埕最高水位ハ同所通常高潮時ヨリ 約二時間半早シ 最急句配時ハ油車口通常低水位ニ達ス約三時間
				三・六八〇
				七・六一
				〇・〇〇・二四
				—
				欠

大正元年八月廿九日洪水觀測

大稻埕河溝頭街 中洲埔庄 間	中洲埔 間	閘渡 間	小八里坌地先 間	大稻埕河溝頭街 油車口 間	洪水流心距離	各處 最高水位 落差	句配	句配ノ比	洪水時 最高句配	備考
二五二〇〇	六四八〇	八六四〇	五七六〇〇	一三九四	〇〇〇〇二〇	〇〇〇〇四〇	〇一	〇〇〇〇三五	閘渡ノ水位ハ二五一九ナリ	

附圖第八號ニ記載セル洪水水位ハ最高水位ヲ連絡セルモノニシテ同時水位ナラザ

レ此ノ句配ヲ實際ノ句配ニナシ難キモ大稻埕閘渡間ト其中間ナル部分ノ句

配ノ比ハ明治四十四年大正元年ニ於テ約相似タルヲ見ルガ故ニ大稻埕閘渡ニテ最

高水位先ツ一時間前ニ起リタル最急句配時ニ際シ其中間ノ部分ハ同ジ比ヲ有スル

可シト假定シ既知ノ最急句配ヲ有スル明治四十四年ノ洪水句配ニヨリテ計算ス

レ大稻埕中洲埔間ノ句配ハ拾萬分四十五ニシテ中洲埔閘渡間ノ句配ハ拾萬分

八十ナリ假リ閘渡ニ於テ後者ノ句配ガ前者ト全様ノ句配ヲ有スル迄其ノ口ヲ

擴メテ其ノ括約ヲ流過スルニ要スル水頭ヲ減ジ從フテ大稻埕ニ於テ夫レ丈ケノ水位ガ

減スルモノトシテ計算スレバ其水高ハ

$$\frac{80}{100,000} - \frac{45}{100,000} = \frac{35}{100,000}$$

拾萬分三十五其距離五千四百尺ヲ乘シタルモ即ケ尺七寸六分ヲ減ジ得可キ理由トナル
 洪水時於テ大稻埕以下関渡迄ハ洪水面勾配ハ孰レノ場合モ河底勾配ヨリ急ニシテ
 水深ハ上流ニ遡ルニ從ヒ其数ヲ増スカ故中洲埔庄以下ガ其上流ト同勾配ヲ持スルニ
 於テハ其上流ト同一流量ヲ流下スル差支ナレト見ルヲ得可シ

而シテ河溝頭街中洲埔庄ノ流心ガ尺七寸六分低下シ尚豫定ノ洪水ヲ流下スルニ
 ハ幾分勾配ヲ増スノ傾向トナルモ中埔庄ノ前面ハ四ノ湖水トナル等其關係頗ル
 復雜ニシテ計算ヲ施スコトノ困難ナル中洲埔庄ニ於テ水位尺七寸六分低下
 ノ結果河溝頭街ニ於テ全水位ヲ低下スト考フルノ簡單ナルヲ宣トス言ヲ換ハ中
 洲埔庄ニ於テ水位低落ノ影響ハ凡テ遺算ヲ見込タモ尚ホ一尺八寸ヲ超ヘザル可シ
 次ニ関渡ノ横断面ガ其下流ニ對シテ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ檢センカ爲メ其水
 面ノ高サヲ明治四十四年ノ最高水位取リ滑粗系数〇〇三トシ大正元年測量
 ル横断面ヨリ洪水量三十七萬立方尺ヲ流下スルニ要スル各所ノ勾配ヲ算出スルニ

町 杭	断面積	洪水時巾	平均深	三十七万立方尺ノ流下スルトシテ速力	三十七万立方尺ノ流下スル勾配	備考
二里二町	四二五六。	一四八五	二八七	八七	〇〇〇三三	町杭ハ淡水登起リ上流ニ遡ルニシテ 関渡後約二里二町ノ前 面ヨリ

町	杭	断面積	洪水時巾	平均深	三七五方尺ノ流下スルトシテ速力	三七五方尺ノ流下スル句配	備考
二里	一里三四町	四〇・六九八	一五六五	二六・〇	九・一	〇・〇〇四二	町杭ハ淡水ニ起リ上流ニ廻ルモシテ閑渡ヲ括縮ハ二重ニ町前ニ面ニアリ
三十二町	三六・六九	一八一〇	二〇・〇	一〇・二	〇・〇〇七三		
三十町	四一・六〇二	二〇・二〇	二〇・六	八・九	〇・〇〇九三		
二十八町	三六・八六七	二三・二〇	一五・九	一〇・〇	〇・〇〇八四		
二十六町	三八・〇三八	二三・〇〇	一六・五	九・七	〇・〇〇六四		
二十四町	四二・一三四	二三・九〇	一七・六	八・八	〇・〇〇五七		
二十二町	四四・一五六	二四・七〇	一七・九	八・四	〇・〇〇五一		
二十町	四四・一五六	二二・一〇	二〇・〇	八・四	〇・〇一〇四		
十八町	三二・六六四	二〇・〇五	一六・三	一一・三	〇・〇〇七六		
十六町	三二・七九三	二三・九〇	一六・七	九・三	〇・〇〇六一		
十四町	四四・四九	二六・二五	一六・八	八・四	〇・〇〇七五		
平均	四三・〇九二	二九・一五	一四・八	八・六	〇・〇〇五三		
平均	四〇・四五二	二一・九三	一九・一	—	〇・〇〇六六五		

以上ノ觀測ヨリ論スルニ関渡ノ幅ニ於テ小ナルモ其断面面積ハ其附近平均ニ
リ大ニシテ一秒三十七萬立方尺ヲ流下スルニ要スル勻配モ他箇處ヨリ小ニシテ洪水ヲ流
下スルニ寧ロ其下流ヨリ好良ノ狀態ナルヲ見ル可シ故ニ関渡上流ニ於ケル急急勻配
ハ只其地形ノ括約セルニ起ルモノト見ルヲ断定シ得可キナリ

今假リニ関渡ノ括縮ヲ除カンガ爲メ第一策トシテ先ツ関渡ノ上下流ヲ可成山滑ニ
連絡セシムル意味ヲ以テ第十圖ニ示ス如ク中洲埔庄鎖線内ヲ低水位以上ニ切
取トスルニ其坪數約六十三萬坪、坪單價ヲ二山トスルニ其金額百二十六萬圓
尚ホ此外ニ其左岸ニ沿ヒ導流堤ヲ築造スルヲ要ス其長少クモ四百間、一間參百圓トシテ
百二十六萬圓合計二百四十六萬圓ノ巨金ヲ要ス第二策トシテ左岸ノ突出部分ニ
於テ最大幅二百四十尺延長百九拾間裏勻配一割ヲ以テ低水面上ヲ切取ルトシテ
其坪數約八萬坪ニ達シ一坪八圓トシテ其工費六拾四萬圓ヲ要スルヲトシ
而シテ此ノ孰レノ策ニヨルモ又双方ヲ同時ニ採用スルモ之ニヨリテ全部ノ障害ヲ除キ得
可キニアラズ他ニ策ヲ講スル利ナル可キヲ信ズ。

四 大嵙崁川ノ分水

台北ノ洪水水位低減ノ為メ別ニ水路ヲ開鑿シ洪水時ノ過剰水量ヲ流出セシムル
事大阪澱川ノ如クナラシムルカ又ハ大嵙崁川ヲ新店川ト合セシメスレテ個々別々ニ流
下セシムル事木曾川ト揖斐川トノ關係ノ如クナラシムルカニ在リ

然レ氏左岸桃園ノ平原ハ高ク連續シ關渡ノ下流ハ兩岸ニ丘陵重疊シテ工作
スルニ由ナキモ只關渡上流ニ於テ平原アリ台北ノ上流新庄附近ヲ開鑿シ大嵙崁川
ヲ關渡ニ直流セシメ關渡ニ於テ新店川基隆川ト合流セシメテ滬尾ヲ經テ淡水港外
ニ流出セシメ得可シ

淡水河洪水量明治四十四年九月一日滬尾ニ於テ測量シタルモノハ最大毎秒三十
六萬四千立方尺又明治三十三年九月十五日滬尾ニ於テ測量シタルモノハ最大毎秒三十
五萬八千六百立方尺ナルモ新店川大嵙崁川西流ノ分流スル場合ニ於テ其ノ箇々最大
流量ヲ各毎秒二十萬立方尺ト假定スルノ至當ナル可シ

今此洪水量ガ大嵙崁ヲ通過スル際水位ノ低下スル影響ヲ次ノ如ク算出スルニ從來ノ
高水位比シ五尺七寸低下スル事トナル。

大稻埕前ニ於テ洪水時ノ状態ヲ明知スルニ由ナキヲ以明治四十四年九月一日ノ洪水基

次ノ假定ヨリ計算ス

一、當時河溝頭街最高水位二二八(土地調查局基面)ニシテ開渡間ノ河ノ勾配。〇。〇三九

際ニ滬尾街ヲ通過シタル同量ノ毎秒三十六萬四千立方尺ノ流下スルモノト假定ス

一、最高水位二二八ト平均高潮位四七二ト差拾八尺。八分ヲ以テ有效深ト假定ス

一、有効深ヲ濕潤面ト同一ナリトシ幅及滑粗系数ヲ常數ト假定ス

一、流下勾配ハ水面勾配ヲ基トシ開渡ノ水位ハ變動セサルモノト假定ス

$$Q = A \times V = B \times R \times V = B \times R \times C \sqrt{RS} = KR^{\frac{5}{3}} \sqrt{S}$$

(流量) (断面) (毎秒流量) (巾) (有効深) (系数)

$$364,000 = K \times (1808)^{\frac{5}{3}} \times \sqrt{\frac{1235}{3,680.00}}$$

$$K = 238979.$$

之ヨリ新店川ノ最大流量ト假定セル毎秒二十萬立方尺ヲ流下スルトセバ

$$Q = KR^{\frac{5}{3}} \sqrt{S}$$

$$S = \frac{R^{\frac{5}{3}} - (R - 1235)}{3,680.00}$$

(新勾配)

$$200,000 = 238979 \times R^{\frac{5}{3}} \sqrt{\frac{R^{\frac{5}{3}} - 1235}{3,680.00}}$$

$$R = 12.38$$

即所要ハ拾八尺。八分ニ對シ五尺七寸低下スル事トナル

$$S = \frac{\text{流下}}{\text{流心距離}}$$

(勾配)

實際ニ於テ川幅ノ常数ナラズ多少ノ變化アリ其他潮流影響閘渡ニ於テ各川合流又ハ逆流ノ影響アリ又次ニ記スル切割ノ為メ遊水地域ノ減少スル等ノフアリトスルモ此既知洪水水位ヲ五尺低メ得可キハ明ナリ

其工法ハ第拾圖ニ示ス如ク新埔庄ヨリ其對岸新庄向ヒ延長千四百間突堤ヲ築キテ大斜坎溪ヲ遮リ平水ハ此突堤内ノ一部ヨリ台北ニ流過セシメテ舟行ノ便ヲ計ルモ洪水ニ際シ其大部分ノ水流ハ此馴導堤ノ為メ新渠ニヨリ閘渡ニ流下スルモノニシテ新渠ハ新庄東端ヨリ起リ中港厝庄ヲ貫キ更寮庄ヲ經テ閘渡ニ出スルモノニシテ其延長三萬。五百尺其最大通過假定水量一秒間二十萬立方尺ニシテ水渠ノ起點地盤ヲ五。五土地調查局基面上トシ其勾配ヲ一萬分四トシ其水深ヲ拾七尺トスレバ其所要幅千五百三十尺堀鑿平均深八尺七寸トナリ堀鑿スベキ土坪ハ約百六十六萬立方トナル然ルニ此附近地面ハ低地ニシテ洪水時ニ際シテ一面浸水シ水流相通スルガ故ニ堀鑿土ヲ以テ高キ築堤ヲ造リ雙方水流ヲ隔離スル可ク工作シ尙最大流量ヲ流過スルニ際シ其流速七尺七寸ニ達シ得ケレバ築堤接水法ト渠底ノ若干部トヲ張石スルヲ要シ其面坪四萬。七

百立坪ニ達ス更ニ流末ニ於テ新店川ト相合スル點ニ於テ導流堤ヲ設ケ且
ソ流出地先後深ク必要アリ假リニ其工費ヲ計上スレバ

一金千百六拾四萬六千圓

總額

内譯

金百〇五萬圓

新埔庄馴導堤千四百間

間口七百五十間宛

金四拾萬圓

新渠入口護岸二千間

間口二百間宛

金六百六十四萬圓

堤鑿百六十六方坪

築堤共一坪四間宛

金九拾四萬圓

張石四万七千坪(間口二千間宛)

(右岸ニ沿ヒ又渠底ノ要部ニ施行ス)

金五拾四萬圓

流末馴導堤九百間

間口六百間宛

金百二十六萬圓

流末切取 六拾三萬圓

一坪二間宛

中洲埔庄ニ於テ低水位以上ニ切取ル

金五十三萬八千圓

潰地約五百三十八甲

一甲十間宛

金五萬圓

補償

費(潰地費ヲ除ク)

金二十二萬八千圓

監督費 雜費

此ノ如ク新渠堀切ハ台北ノ洪水防禦ニ有效ナラサルニアラサルモ其工費巨額ナリ

施行ニ遠キモノト信スルノ止ムヲ得サルナリ

五、最後ノ台北洪水防禦案

台北洪水防禦ハ前ニ記セル大稻埕ノ浚渫、閘渡ノ切割、大料坎川ノ分流工ヨリ奏功得ヘカラズ、換言スレバ或ルモノハ殆ンド無效ニ或ルモノハ其效果充分ナラズ、或ルモノハ其工費余リ巨額ナル為メ孰レモ實行ニ遠キモノニシテ別ニ通常人ノ稱道スル案トシテハ水源涵養、造林、砂防工ノ效果ヲ説クモノアルモ此南洋附近ニ於テ一般ノ氣候變化ニ附隨テ發生スル大降雨量ハ此小島尤台湾ノ造林ヨリ左右レ得可キモノナラズ、雨量ノ關係、地層上ノ關係、風力ノ關係等ヨリ論断ス可キモノニシテ風力少ナキ雨量少ナキ歐米模範トシテ之ニ則ル可キナラズ、昨年ノ洪水ニ際シ某地質學者ヲ説クナレテ曰ク、試ニ本島中央山脈ニ就テ溪流ニ沿ヒ其地質ヲ踏査スルニ概シテ平地ニ最近キ下流ハ砂岩層ニシテ夫ヨリ進ミテ海拔二千尺ヨリ五六千尺ノ間ハ粘盤岩層又其上流ハ片麻岩層ニシテ殊ニ其粘盤岩層ト砂岩層頗ル新キ處、女層ヲナシ絶エス、雨水ニヨリテ侵蝕セシ流下シラルアルハ現ニ平日於テ溪流ノ全ク澄清ナル所謂濁水溪ナルモノ各地ニ其数多キヲ視テモ如何ニ本島中央山脈地層ガ粘盤岩層ノ軟弱ナル地質ニシテ其風化作用ノ激甚ナルカラ知ルニ足ル可ク殊ニ水

島ノ地勢即チ面積割合ニ海拔ノ高キ關係ヨリ其流域兩岸ノ絶壁ハ非常ナル急傾斜
ヲナレ居ルヲ以テ風雨ノ度毎ニ甚キ崩壊作用ヲナレ多量ノ土砂ハ溪流ニ押流サレ下流ナル至
地ヲ填埋セリ故ニ其水害ハ年一年ヨリ増大シ遂ニ昨年並ニ本年ノ如キ慘害ヲ見ルニ至レルモ
ニテ此慘害ハ將來益々増加ス可キハ自然ノ傾向ナルガ此關係ヨリ治水ノ策トシテ上流ニ植林
ナレ土砂桿止ノ方法ヲ講スルコトモ強ク無益ノ業ニアラサルヘシト雖モ其植林ニヨリテ成功センコト極
メテ困難ナルハ矢張り地勢地質ノ關係ニテ急傾斜ナル上ニ軟弱ナル地質ナク若シ樹木叢生
ヲ見ル時ハ風水害ノ為ニ一層大ナル山崩レサレバ現ニ年々風水害ノ際流木ノ非常多
キニ徴レテモ明ナル所ニシテ軟弱ナル地層ニ生育シタル樹木ガ却テ風水害ノ原因ヲ為ス事實莫
カラサバ寧ロ自然ノ狀態ニ放置スルヲ安全トストノ説モアリ云々此説ハ肯綮ヲ得タルモノナル可ク
結局造林問題ハ斯道ノ緻密ナル考案調査ヲ待テ始メテ有效トナル可キ問題ニシテ
尚ホ山地ニ貯水池ヲ設置シテ雨水ノ幾分ヲ貯水シテ洪水ヲ軽減スル説ハ此句配ノ急ナル台灣
河川ニ充分效力ヲ有スル位置ヲ見出スト難ク又台北市街地盤面ヲ洪水水位以上ニ築キ上
クシテ説アルモ何人ノ心掛ハ別トシテ市内全般ニ施スニ至リテハ頗ル多額ノ工費ヲ要ス難事ナ

最後ノ案トシテハ台北市街ノ四周ヲ包圍シテ外部ヨリ河水ノ流入ヲ防遏シ此廓内ニ降下セル雨量ノ大部分ハ廓内低地ノ一部ヲ遊水地トシテ之ニ貯水シ他ノ一部唧筒ニテ汲ミ上ケ河水ノ低下ヲ待タテ放水スル外ナカル可シ

台北ノ包圍工事ハ台北ノ東端九板橋頭ヨリ約南方ニ向ツテ進ミ林口店仔ノ前面ニ至リ南ニ折レテ河岸ニ出テ之ニ沿ヒ新設古亭庄護岸工事ノ箇處ヨリ西北ニ走リテ艋舺ニ至リ更ニ河岸ヲ沿ヒ此工事ハ總テ土堤ヲ以テ築キ河水ノ林口庄ヨリ浸入シ来ルニ備フ此延長四千間次ニ艋舺ヨリ大稻埕ヲ沿ヒテ下牛磨車庄ニ築ク可キ堤ハ石垣護岸トナル可キモノニシテ此延長二千二百六十間次ニ下牛磨車庄ヨリ北東ニ向ヒ山山公園山麓ニ於テ淡水鐵道線ニ連絡セシム此工ハ土堤ニシテ延長七百間此地点ヨリ南ニ向ヒ基隆鐵道線交叉線ヲテノ淡水鐵道線ト交叉線ヨリ九板橋頭マデノ基隆鐵道線ノ築堤ヲ堤防トシテ假用スルノ目的ナリ而シテ各暗渠出口ニハ各相當裝置ヲ施シテ水流ノ交通ヲ整制ス可キハ勿論ナリ

而シテ此ノ包圍面積ハ約三百三十萬九千平方坪ニシテ^{台北}測候所開始以來日

中ノ最大雨量ハ貳百八十七耗ナリ故ニ包圍堤内ニ於ケル一日ノ最大雨量ハ約一億一千二百八十二萬立方尺 一時間約四百七拾萬立方尺トナル

假リニ包圍内大稻埕鐵道線路上ニシテ土地調查局水準八尺以下ノ地ヲ遊水池トシ水ヲ貯フルトスル其容積ハ

等高線一呎以下ノ面積 一、四四九、〇〇〇 平方尺 平均 深五尺容積 五二、二四五、〇〇〇 立方尺

等高線六尺以下四尺以上ノ面積 一五、一三六、〇〇〇 平方尺 平均 深二尺容積 三〇、二七二、〇〇〇 立方尺

面積總計 二五、六八五、〇〇〇 平方尺 容積合計 八二、五二七、〇〇〇 立方尺

降雨量對シテ七五五時間分トナル

前記一日ノ最大雨量一億一千貳百八十二萬立方尺ニ比シ不足量三千、三十萬三千立方尺ト

ナル此不足ヲ唧筒ニテ貳十四時間内ニ汲ミ上グトスルバ一分間ノ汲換量約二萬一千立方尺

トナリ其汲揚程ヲ十二尺トスルバ吸込管ノ徑三十吋ノ唧筒拾一台ヲ要シ其所用實馬力

二千貳百馬力トナリ建設工費貳拾萬圓ヲ要ス

尚ホ台北基隆川間淡水鐵道線間軌條ノ最低水準ハ一九五ニシテ其損害ハ常ニ大

稻埕方面ヨリ來ル洪水因シ基隆川ヨリ來ルモノニアラス此線路橋梁暗渠ニ相當ノ

準備工事ヲ施セバ基隆川ヨリ包圍區域ニ浸水ノ憂ナキナリ

葫蘆堵ハ淡水鐵道線路山山鐵橋下三千四百尺ノ下流ニテ基隆川ノ左岸ニシ
テ番仔溝流北岸ニテ此處ノ最高水位ハ一八尺八寸土地調查局基面上ナリ洪水ニ際シ
殆ト常ニ淡水河本流ノ洪水ハ此番仔溝流ヲ經テ基隆川ニ流入スルガ故ニ其出口位
スル葫蘆堵水位ハ基隆川ノ本水位ヨリ高ク葫蘆堵ヨリ遡リテ若干ノ箇處ハヨリ
低キ水位ヲ有ス可キモ山山鐵道橋下ニ至リテハ大ニ差ヲ有セサル可ク近日洪水ノ痕跡
ヲ尋ネ測定セシ所ヨリ見ルニ葫蘆堵ヨリ遡リテ千五百尺ノ地点ニ於テ最高一八尺二三寸得
山山鐵道橋下ニ於テ約一九尺得葫蘆堵山山鐵道橋下水位ハ大差ナシ倍々差ナカル可シ
前記句配地内ノ排水口ヲ山山鐵道下ニ述メ洪水ニ際シ基隆川ノ低水位ナルト前記
遊水池ヲ利用シテ包圍地域内水位低減ノ策ヲ立フルニ先ツ大稻埕水位ノ一二尺ニ達スル
ヲ待テ其溢水ハ凡テ河溝頭街ヨリ大稻埕陸橋下ニ出テ北門外街裏開渠ヲ逆流
ニ達スルヲ經テ排水口方面流下セシメ更ニ圓山鐵橋下水位ノ一二尺土地調查局基面
上ニ達スルヲ待テ其口ヲ鎖シ降雨ヲ前記一八尺以下ノ遊水池ニ貯ヘ基隆川水位ノ頂點ヲ
超エ十八尺ニ降下スルヲ待テ排水口ヲ開ク如ク作業スルヲ要ス

既往中尤之都合惠キ場合即々大正元年八月二十八日於之ヲ計算スル大稻埕
水位一丈二尺ニ達スルヨリ圓山鐵道橋下水位一二尺ニ達スル迄ハ時間ハ約拾一時間ナル可
量水標欠測ノ為ノ推斷丸山鐵道橋下水位一二尺ニ達シ頂点ヲ超ヘ一八尺底下
ス迄ハ時間ハ拾六時間ニシテ前記遊水池最大降雨量ヲ十七五五時間大貯水
シ得ルヲ以テ別ニ唧筒ヲ使用セスシテ其目的ヲ達シ得可キナリ
只今後台北市街ノ發展ハ現在算出セル一八尺以下遊水池ノ存在ヲモ許サズ漸次其
面積ヲ減少スルニ際シ始メテ唧筒ヲ使用ヲ必要トスルニ至ル可シ
包圍工事ノ詳細至リテハ市區改正工事ニモ多大ノ關係ヲ有シ又ハ大稻埕河岸ノ
如キ護岸ガ目的ニテ又防水壁ガ目的ナル其交通ノ障害ヲ輕減シ得ル様又防水ノ
目的ヲ達シ様充分ノ考慮ヲ要シ全部測量完結シ上ナラデハ充分ノ豫算ヲ定メ難
キモ市區改正連絡工事費ヲ除キ其工費約百二十萬圓ヲ出デサル可シ

瓜哇米作

臺北書院街五丁目

十

瓜哇ニ於テ米ハ重要ナル農産物ニテ灌溉用水不足ハ多ク救済他ノ植物ニ比シ吸水量大ナル米ノ耕作ヲ標準トシテ之ヲ定ム

普通ハ一畝一立方尺ノ水ハ約二十町歩ヲ灌溉スルトシ別ニ甘蔗等又ハ沃テニ對シテ余裕ヲ見込ズルモ甚トキ砂土ニアリテハ約八町乃至十町歩ヲ灌溉スルト定ムルモ又對ニ粘土質ノ土地ニアリテハ二十五町歩ヲ灌溉ニ得ルト定ムルニアリ

土地仕上ゲノ必要ニ濕潤又ハ苗ノ移植ニ要スル灌水ハ一町歩ヲ四又ハ五ニ分チ假溝渠ニ灌ル一區域宛灌水シ其期間ハ二週間迄ニシテ土地ノ整理苗ノ移植ニ要スル時ハ二週間ニシテ移植後生育迄ハ十四週間收穫成熟收穫ニ約二週間ヲ要スルモ

準備

終リトシ信ヒ其量ヲ減ルルヲナハ有以名ニシテ之

元來耕作ハ土地整理ノ時様ニ於テ水量ノ水ヲ要シ花咲時代ニ於テ用水不足ハ此等時様ヲ至急用シ可成用水ヲ様々トシ如ク移植時様ヲ整理ヨ各區共見元計ニ移植ハ附ケテナス甚盛ニ瓜哇ニ於テハ殆んど時ノ制限ナク耕作ニ得レハナリ

農務局長ハ明治四十二年一月其狀態ヲ説明シテ曰ク

以下米作ノ順序ヲ説明ス

苗床ノ面積ハ田柱面積ノ五分一乃至十分一ノ普通約十分一トシ其取捨ハ約十日程

苗床ハ田柱面積ノ五分一乃至十分一ノ普通約十分一トシ十日程耕

耕作ヲ施シ二十日間灌水ヲナシテ後播種シ後三十九日乃至五十日間灌水ヲナシ自取

作ヲ施シ二十日間灌水ヲナシテ後播種シ後三十九日乃至五十日間灌水

後ニ之ヲ飽水セシメテ地ヲ軟ニシ

ヲナシ最後ニ之ヲ飽水セシメテ地ヲ軟ニシテ播種キ之ヲ束ネ容易ニ運搬

移挂シ易キ様ニ之ヲ整理ス後田柱ヲナスリ

水田ハ一柱附區域約百四十町歩ヲ四六カノ区域ニ区分シ各假溝ニヨリ

其一小區域ニ對シ

順次

灌水ニ得ル如ク之ヲ置キ其全區域ニ灌ク可キ在水量ヲ十日間宛注入シテ土

スベイト

壤ヲ軟弱ナラシメ踏鋤ヲ以テ荒川ヲナシテ高二十日間灌水シ後稻利半

先ヅ

新起

(3)

土壤ヲ肥ル地 臺北警院街五丁目 十川

ヲ以テ耕シ耙耨ヲシテ粉砕シテ水キナラシムルヲ土壤準備時期ニテ約
六週間ヲ要ス

綠柱
準備仕ノ後由柱ヲ施ス苗ハ其種類ニヨリ由基ナシモ普通四月乃至七月間

ニ乃至五苗ヲ根泥附儘綠柱シ其後二日乃至四日ヲ経テ再ビ灌水シ

十日乃至十五日ノ後廿六日排水ヲ施シテ乾燥セシメ苗ヲ取ハルモ一回
其生育時期ハ

之ヲ行ヒ由柱後十五日乃至二十日同ニシテ成熟ハ收穫ニ際シハ兼

見分ナシ排水ヲ施ス其期間ハ二週間ナリ

種

月下政府機種ニ注意シ地方ト種ノ適不適ノ關係ヲ研究シテ地方人

民ニ示シツアリ政府ノ指示ニ従ヒタルハ成功シツアルナリ

苗床ニ播種ス方法ハバウ播ニシテ其ノ畝長ハ一町半ニ對テ二百三十四畝

(約一石二斗)

苗床

(約八斗)

乃至三百三十六畝 其種ハ塩水浸ヲ施シタルモノヲ用ユ

米病

重

ニヤハニ米病ハ *Lencina Oriza* 及 *Septoria acule* 二種

ニシテ此等ノ病ハ地ハ非常乾燥スルナキ原因スルガ政府ハ二期同ナ

播長 廣サナリ

明治四十年 月 日

米ノ産額ハ

臺北書院街五丁目 十川

北バタニニ^テ米ノ産額ハ一町歩ニ平^板最大一千四百石(約^板四十八石、三)

最^板小 (約^板千石、八) 平均^板二十四石、一ハタヒヤニ^テ普通^板十五石、

スラバヤニ^テ平均十八石乃至二十二石、五、東凡^テニ^テ二十四石乃至三十六石、
ホナリ

摘穗百ニ對スル種ノ比次如シ

摘穗百、^板粗^板八、玄米^板廿七、一等米^板三十一、二等米^板十七

小糠三、粗糠六

十時間揮毫

角^テ月下使用シワ、アル結果概ハ四十石内外ナリ

(5)

明治四十年 月 日

甘度耕作の状況

臺北書院街五丁目 十川

米田、貸借期間ハ六ヶ年半ヲ一期トシ此期間ニ甘度三作ヲ

且其收穫年天別ニ他ノ第一作物ヲ耕作シ而シテ次キノ

完成シ終リ二年ニ於テ米作ヲナスナリ

凡畦米ハ在里田中ニ里西チノモノニシテ此島内ニ於テモ重要ナル産

物ニシテ輸出入額ハ千九百六年ニ於テ約四十五万石ニシテ其

其輸入先ハ

輸出入先ハ改米ノ市場ニシテ輸出入額ハ百八十三万石ニ在余ニシテ亦緬馬羅

羅ニシテ此等ハ名等ノ品質ニ属ス

農業

地盤ノ所持已域ハ十二シテ一人ノ所有七反ヲ出デヤンガ如キヤ此農土ハ灌漑

計畫ハ第一是等、地盤チ好位置ニ四道チカ有リ此地ノ地力ヲ開發セカ

○半價ハ一石八田九十二年乃至十一年卒すナリ

臺北書院街五丁目

十川

方メ且ツ耕作し得可キ地積ヲ増サセムナセムニ付ナセムニ付テ其他
附隨五ノ利益ハ措テ問ハサルナリ

政府ノ主義トシテハ食料利益ノ為メ水ヲ設備シテ食料益ノ不足
ノ憂ヒナカニセム又其事事業ガ六分ノ利半トナルニ付政府ニ收入ヲ供
フルル公益事業ヲ未ダ起スニ付此後資本ノ許ス範圍ニ於テ水利事業
ハ繼續圖スルナリ

千九百廿年ノ統計ヨシバ農業従事者ハ男ハ五百二十五万人余女百三十
八万人余總計六百二十五萬人余ニ付人々ノ二割二三ハ農業ニ從
事してアルナリ

佐ガ可キ統計ヨシバ地租ニ付政府ノ收入ヲ益ス可キ計畫セル水利事
業ハ資本ニ對シテ有利ナルトナラザリナリ然レモ土地ノ價格ハ也

此事業也

明治四十年

月

日

割乃至十割ノ増加ヲ求テ生産力モ亦全振ノヒテ増シ借地科モ灌

漑地ニ對シテ四割乃至五割ノ増加ヲ求セリ

凡畦ノ後人ノ所ス所ヨシハ排水ノ乏分ナル箇處ニ對シテ灌漑ノ利~~又~~得
ナキ事且在来圳ノ改修ノ利益尤キナリ。

政府ハ水頭構造ニハ幹線ハ支線ノ分先ニ任ジ其他ノ小鑿^ハ鑿田溝

ノ築造如キハ政府ニ對シテ利益ヲ享クル人民カ自ラ無償ニテ筑造ス

ルモノニテヤ鑿圳以下ノ水ノ分配(一)已^約割ヲ百^約坪町トスハ村ノ土着ノ後

人ノ支配ニ屬セテ作持業シタリトモ此方法ハ充分ノ美実切ヲナシ得サリシニヨリ

今日ハ政府ハ始終水ノ分配ニ對シテ技術上指道スノ旁ヲ取セリ

今坪圳ノ月取^ハ其概況ヲ説明セカナメプ^レニ圳ヲ取^ハ可シ

明治四十年 月 日

明治四十年 月 日

北書院街五丁目 十川

此洲ハ其墾既面積ハ~~其~~木田十~~六~~六千六百二十五町其工費九十四萬
四千六百五十圓、二十分ニシテ其地租ハ三万五千七百四十圓ニシテ其内八分
ハ徵集ホ其用ニシテ其二万七千七百四十圓ハ建築費ノ額ニシテ政府
ニ納入シ其残余ハ修繕費トシテなおスモノナリ、
而シテ此事業ノ利益ハ次如シ

- 一、甘蔗ヲ栽培スル地慶六千三百三十九町又~~増~~シテ
- 二、米作地四千六百五十一町ハ六千四百六十一町ニ増シテ
- 三、其收穫ハ一町歩三十一石五斗ヨリ 二十四石一斗二斗ニ増シテ
- 四、乾燥期ニ於テ乾燥植物及甘蔗ノミナラズ米其他右用植物ヲ栽培シ得ル可キ
ニ至リ此乾燥期ニ栽培スル收穫ノ價格ハ一斗七千二百圓乃至二十五萬三千二百圓
田ニシテ一年ヲ通シテ十六万六千四百圓ノ増收ナリ、
- (五) 政府ハ漸次地租ヲ上げテ今日ノ三万五千七百四十圓ヲ得ルニ至リ

(六)灌既前ハ三千六百坪ハ町歩ハ米、九百坪町歩ハ甘蔗、五百坪町歩ハ玉蜀黍ハ町歩ハ
二千七百七十一町歩ハ玉蜀黍ヲ栽培セリ、灌既工事完成ノ後ハ四千八百坪町
町歩ハ米ヲ千六百坪ハ町歩ハ甘蔗、三百坪町歩ハ玉蜀黍ヲ栽培セリ
此等事業ハ資本金ニ對シ六分ノ收入ヲ返還シ能ハルハ故ニ之ヲ保護事
業ト考ヘ居ルナリ

尚一ノ例トシテ説ク可キハモシク灌既事業ニシテ

此州ハ百年前ニ建造セラレタモノニシテ凡テ假令工事ニテ計畫工事ノ設置セ

テトモハ加町歩ハ四千二百六十町歩ハ米作地トシテ増加し得可シ

(矢張り)

千八百六十二年 夫ハ十年賦後ヲ起シ改良ヲ施セシモ洪水ハ其由ナリ
ニヨリテ直ニ破壊サレ 千八百九十年 政府ハ之ヲ改觀ヲ企テタリ

明治四十年 月 日

此計畫ノ手帳ハ

臺北書院街五丁目

十川

米作ノ必要ナリ

此ノ工事ハ千九百年ニ始リ千九百〇五年ニ完成セリ其灌漑區域ハ

四千六百五十一町歩ニシテ其内三千四百十八町歩ハ新米作地ナリ

種ノ種ノ後ノ降雨期及々米植附期ニ於テ

用水半ハ一秋一個ニ七町、二ノ割合ナリ
乾漉期ニ於テ二十八町歩

ノ割合ナリ
然レ施建タル後漸次土砂ノ流入ニヨリ一秋一個ノ水ハ面町歩四

ノ灌漑ニ得可ク豫期セリナリ

此ノ灌漑面域ハ二十ノ區劃トナシノ中區劃ニ區別一區劃ハ各七十一町乃至

三百十三町歩ニシテ小繪州其他十區ハ無償ニテ政府ニ付シテ修繕ノ至我務有

明治四十年 月 日

スモノニテハ給田ヨリ大溝ハ灌漑ヲ知ナラシム排水溝ヲ築キ直セシ村後
人ノ手ニ支配サレモナリ

其積算并工費ハ四十四万六千八百円金ニテ其累積費決算額ハ四十八万四千
四百四十円乃チ一所歩ニ千三百の三円トナシ

地租ヨリ増収ハ一年ニ千五百三十九円ニテ其維持費ハ千五百六十円ニシテ

其積算并工費ハ四十四万六千八百円金ニテ其累積費決算額ハ四十八万四千
四百四十円乃チ一所歩ニ千三百の三円トナシ
糖稅其他ノ利益以外トス

千九百零年此灌漑地内ノ收穫額高ハ十一万二千四百四十八円ナリシテ千九百零年

明治四十年 月 日

明治四十年 月 日

延ト所考地手由信 五丁目 十川

二、延テ四十八万九千四百三十六円ノ收獲ヲ上ケ得ルニ至リテ、

此ノ事ニヨリ得タル重利ハ

一、旧米田千九百七十町歩ニ付テ米ノ增收及收獲ノ確實、

二、三千二百七十六町ノ米作新田ヲ得タル事ニ付テ此ノ收獲三十七万六千円

三、洪水ノ害ヲ除キ又早稲籾罐ノ白粳ヲ除ク事

四、建設費ニ對シ四分ノ利金^{延二}地租ニ附加シ得ル事

五、鉄道貨物ノ増加、地價ノ増加、一般租税ノ増徴ハ人区増加等

其埤圳ノ工作物ハ取立、排石門、水橋、サイホニ等ニシテ

36
2160
550012

$$\frac{10,000 \times 3.3}{1 \times 6} = \frac{5,500}{2160} \text{ km}$$

$$17.484 \times$$

14-

臺北書院街五丁目 十川

幹線ノ長約四里三町七丁半長四里三町三丁半
排水ノ長約三里十三町三丁

幹線中ノ主要工事ハ取入口一、流水工、十九、排水門三、暗渠五、水
橋一サイロ一、鐵道橋四、車道橋五、畜道橋八、余水吐三、人及家
畜ノ水浴場五十八丁

以上記載引用セルヘカシニモレテ地方ノ灌溉工事ハ凡テ灌溉標準トシテ
之ヲ見ル可シ

排水ノ記載

排水ノ記載ニハ今迄ニ
技術上三國ノ洋油ノ排水ハ其設計ヲ必要ニ法式而建設ニ
對スル當才價ヲ記載ス可シ

明治四十年 月 日

山口原野ハ其面積約十萬八千四百三十町步ニシテ之ノ地形測量費約
八十万円ヲ要スルナリ

普通軍隊ノ測量ヲ終ヘタル箇所ニ灌漑用トシテ更ニ施ス可キ測量費ハ

一町步ニ円二十セウ乃至三円三十八セウナリ

普通^其全面積ノ七割五分ハ灌漑田トナリ其ニ割五分ハ村落道路用

水路池沼等ナリ

建設費及維持費ノ一町步当リハ次ノ如シ

パテゴアン、モレク、ペカレン、デマツク、レンジメスト、ケニグ、ペマリ、平均

一〇七、〇〇 一〇三、〇〇 一二四、〇〇 一七六、〇〇 一七〇、〇〇 九七、〇〇 一 一五、八三

一 一 一、五 一、六 一、三五 一、三〇 一

以上ノ維持費ハ政府官吏俸給、カ給州、田溝、排水溝ノ維持費ト

建設費
維持費

281
1967
330

1281
48
71

128
2014
14
60

16
2014
1170
119
30
130

ヲ會右セザンモシテ先づ一ヶ年一町歩一用七十歩ハ至当ノ價格ナリ可シ
尤モ維持費ハ用水率トスニ始メニ大ニテ年ヲ經ニ後ヒ其額ヲ減ズ

用水率ハ土作後續々^{精密ニ}觀測モテ決之サルトモニテテ

其亦ハ一秋一立方尺^{水ハ}破土於モ町一歩ノ粒土ニ於テ二十町ナリ灌既^{ハ至極}ノ工事

ヲ完成スルニ相當ノ時日ヲ要シ又破土ハ二三年ノ後其浸透量ヲ減スルヲ
以テ普通ニ十四町、四町ニテ其亦十町ノテ之ヲ云ム

尤モ細泥ノ如キ圳路ニ對シテ此ノ断カハ不安全ナルハ論ナリ

ハテゴアン灌既工事

注意シテ研究シタ後用水率ヲ一秋一立方尺^{ニテ}十二町歩ハト之メタルモ工事完成
ノ後十四町歩セ、トナシテ之ヲ見セリ

明治四十年 月 日

臺北書院街五丁目 十川

水速ハターシー及バザンノ式ヲ用キテ計算シ其値ヲ1000ニハ

るノ値ヲ0.0035トス

量水堰ニ用サル式ハ $Q = mb^2 \sqrt{2g} h$ ニテ m ハ0.35乃至0.4ニトシ近接

連カハ計算外トシ

水門入口ノ流量計並ニ用ニ式ハ $Q = 0.65 ab \sqrt{2g} h$ トシ式中 a ハ巾スハ

水位ノ差トス

圳路ノ敷巾及水深ハ堰鑿ノ經驗ニ關係シ小圳路ナリテハ其敷巾ヲ其水深ノ三倍乃至

五倍トシ大圳路ナリテ其巾ヲ其水深ノ十倍乃至十五倍トス

堰鑿及筑堰之方其法ハ其土質ニ依リテ定ムルモノニテ普通一割トス但し

ワジロドジョエン系統ノ幹圳ハ一割五分ニテソロ原野ノ幹圳ハ一割五分ニテ水窪中ニテ

十ノ箇處ハ水面以下ヲ二割トス

竹架堤ノ高サ九尺九寸(三ノ一トス)十ノ箇處ハ三尺三寸トシ水面上ノ表面ハ

明治四十年 月 日

2475

2475

315
48
270

茅濃 千七百三十
楠梓 二千八百四十

19

臺北書院街五丁目 十川

之今工作シ其地ニ水トハ必要ノ箇處ニ隨ヒ張石ヲ施スアリ

重要圳路水面以上筑堤ノ高サハモレクニ於テ二尺五寸(七セ)ペリニ於テ一尺六

寸五(〇、五〇) (及ツレヨドジン)

及ツレヨドニ、カニガシ

ソロ原野路ノ高ハ三尺三寸(一メートル)ナリ

川ノ洪水日里ハサニテベリ、式ヨリテ計算スルナリ 一平里ニ千六百六十立方尺乃

ル土二千四百九十立方尺(一平方キロメートルニ二三乃至四、五立方メートル)トス

川ノ流量ニキテハ特ニ注意スルナリ 俟用スル結果ハ五乃至十年ニ跨リ

観測セルモノシテ其日毎流速ハ百三十尺乃至百七十尺ノ距離ニ浮子ヲ流シ

ストゾ、又ハ、ヨリ観測シ其日毎最大流速ト平均流速トハフロニ、式ヨリ計算ス

ス其式ハ

$$V = \frac{2.37}{3.15}$$

ニテハ水流一秒ノ平均速力

トハ日最大速力

明治四十年 月 日

明治四十年 月 日

臺北書院街五丁目 十牌

重要なる構造物、近隣又ハ川口ニ於テ日里水標ヲ立テ低地ニテ耕地ノ排水ノ適、不適ヲ決之スルノ材料トナリ
又川ノ高低水位ハ低水位ヲ利用シ高水位ノ~~破壊~~破壊ニ堪ル永久構造物ヲ~~可~~可~~造~~造ニ必要ナリ。

日里水標所一年ノ費用ハ四百五十圓、日里水標下所一年ノ費用ハ六百八十圓

ニシテ

（工事用居

此~~地~~地ニ於テハ平均相場ハ左如シ

若カ 〇、二四一〇、三三

又ハ傷身カ、二一〇、二〇

土人左 〇、四〇一〇、八〇

土柳太夫 一、六〇一、二四〇

土人棟梁 〇、八〇一、二二〇

土人石工 〇、三二一〇、六四

土人石匠 〇、五〇一、二二〇

土人鐵匠 〇、八〇

土人鐵匠 一、二〇一、二六〇

土人石匠 〇、三二一〇、六四

土人石匠 〇、八〇一、八〇〇

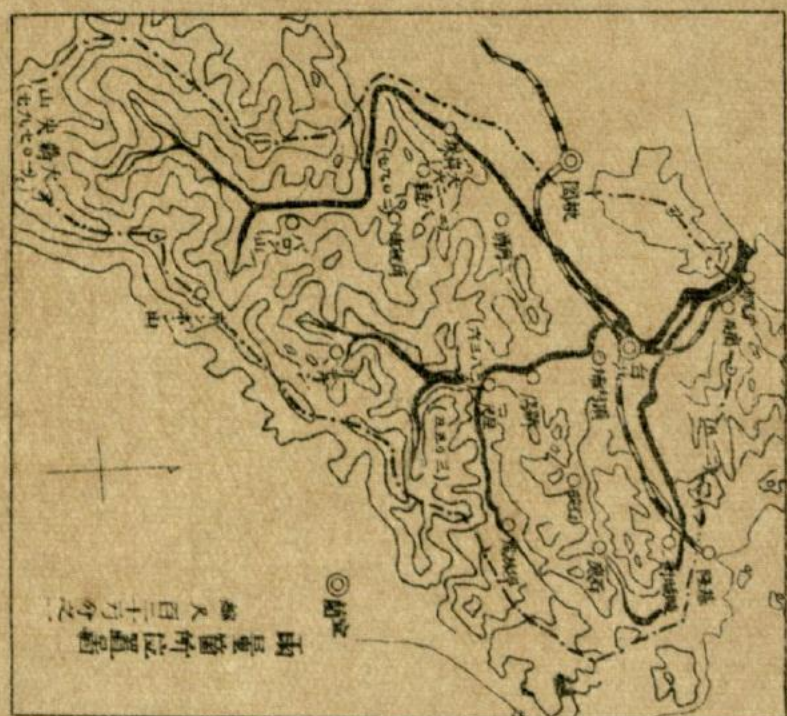
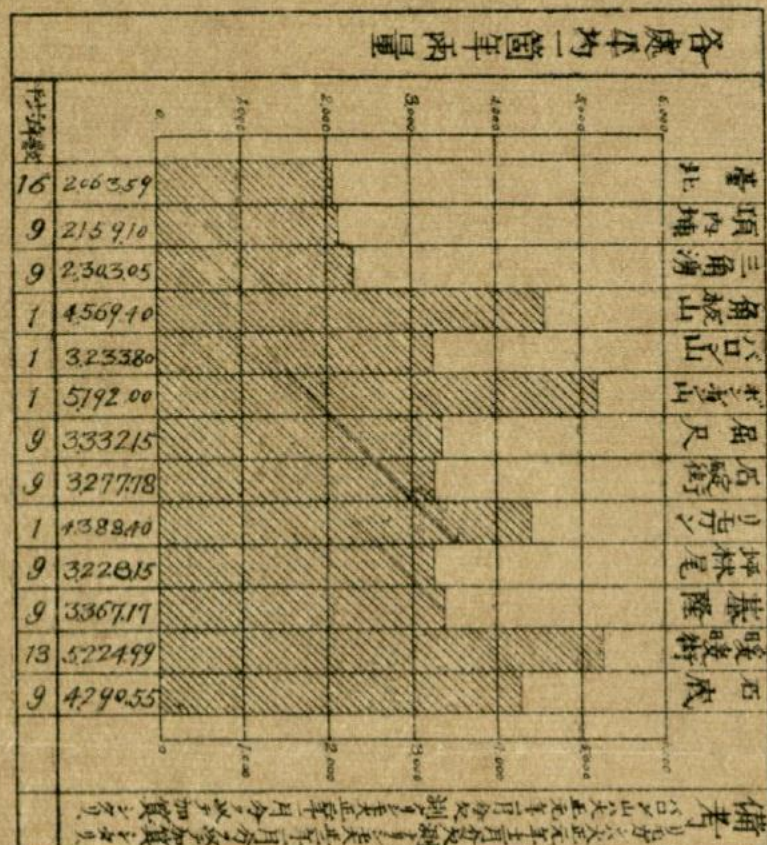
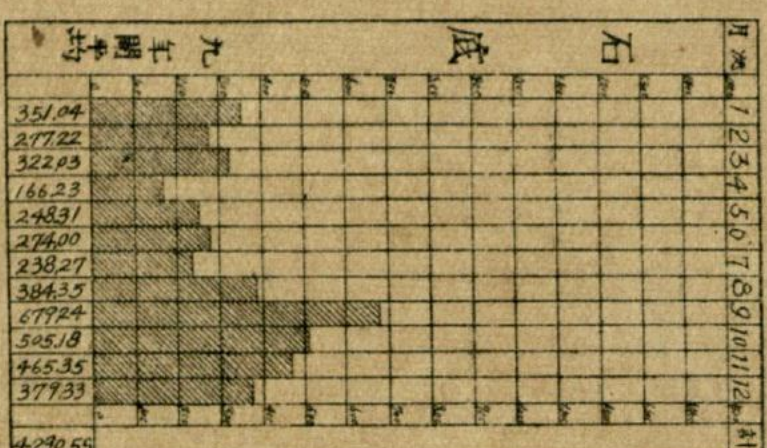
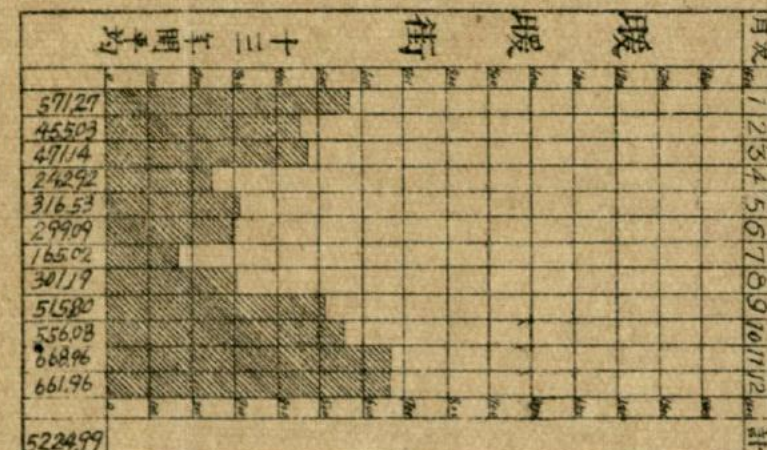
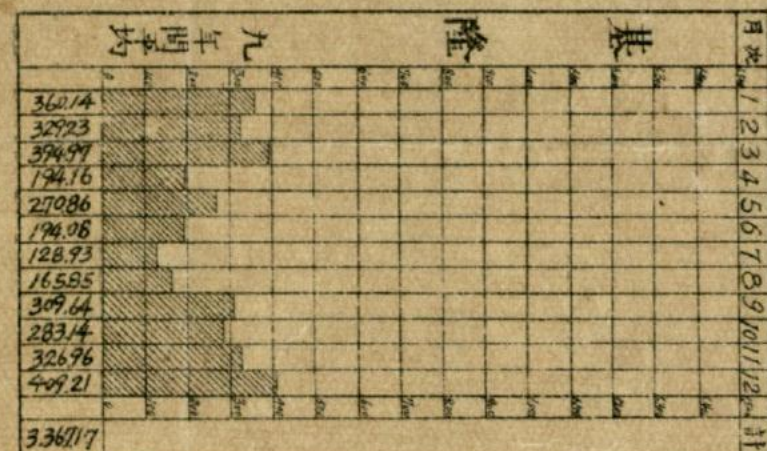
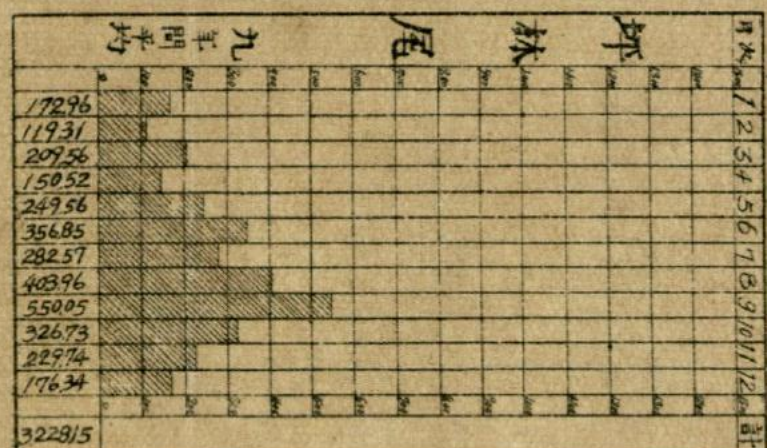
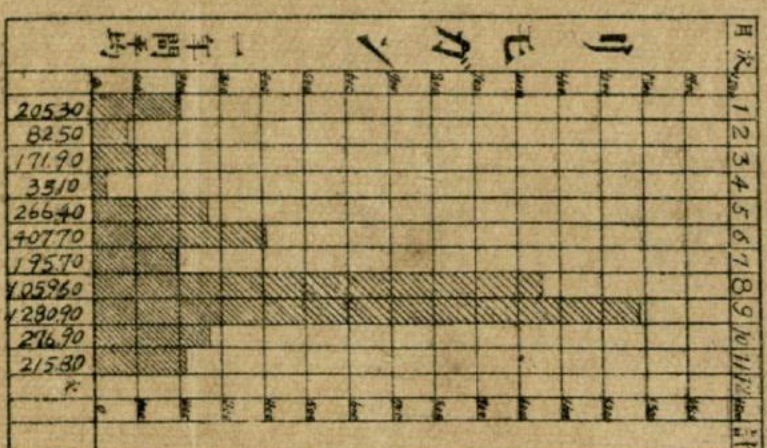
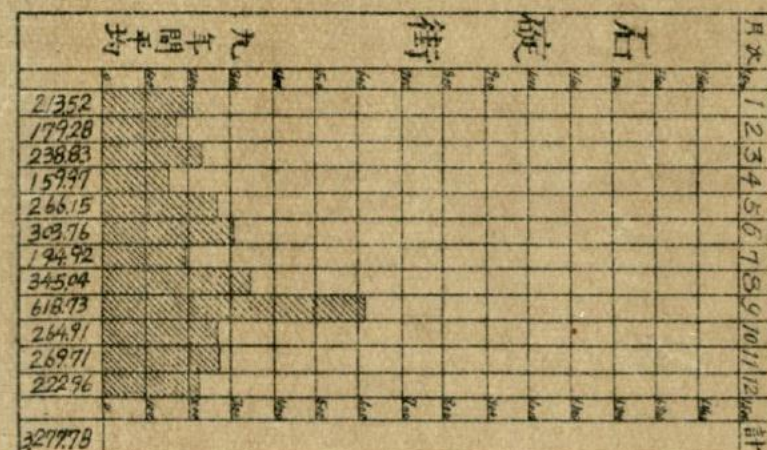
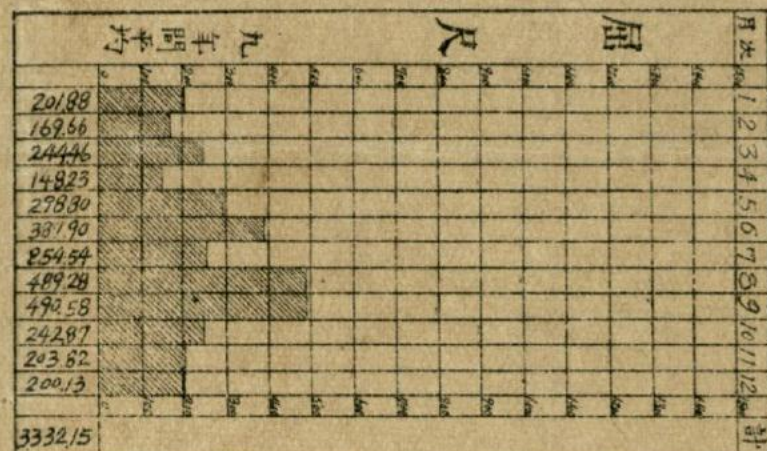
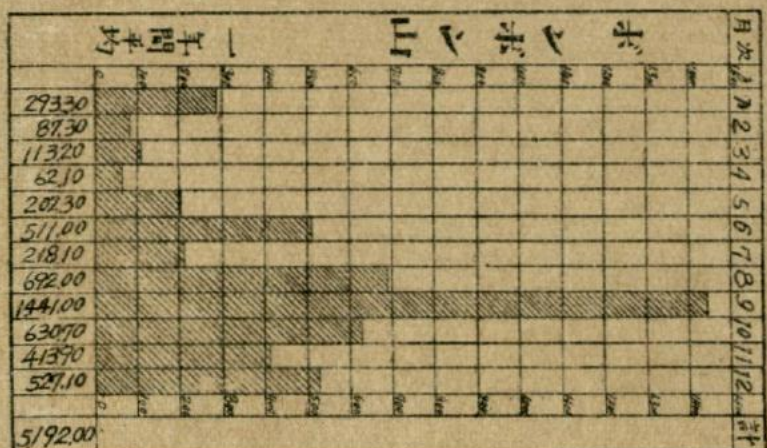
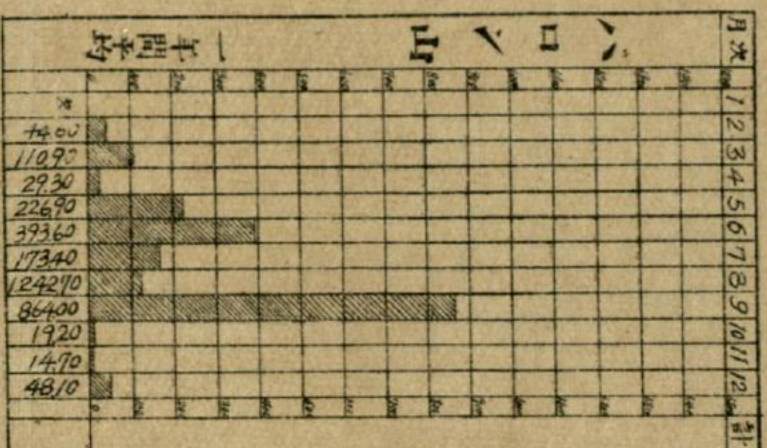
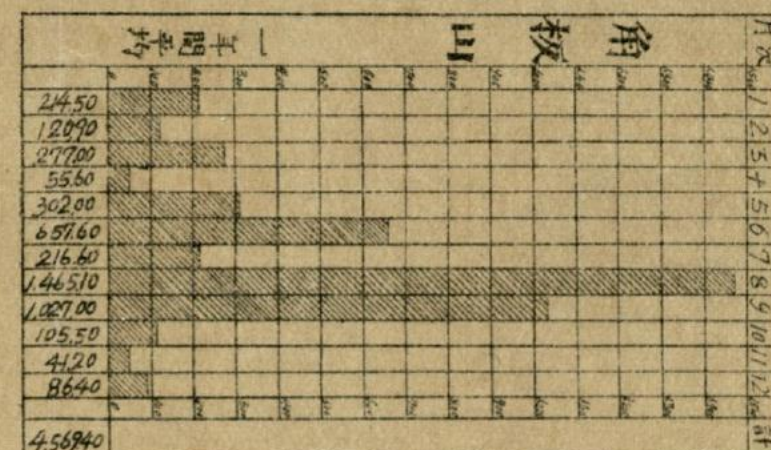
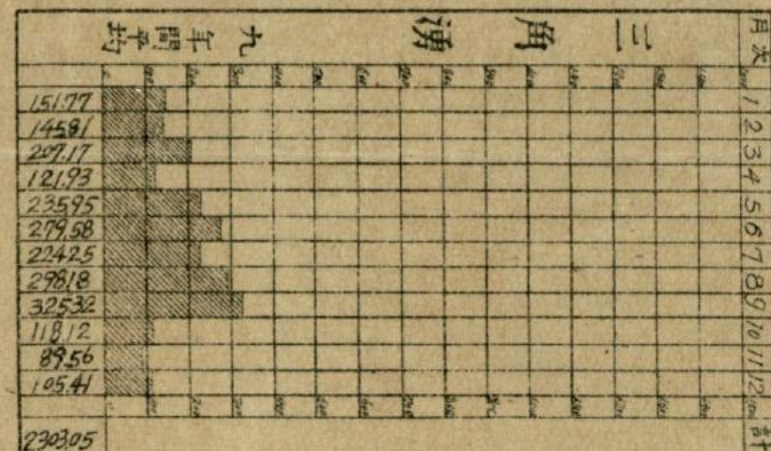
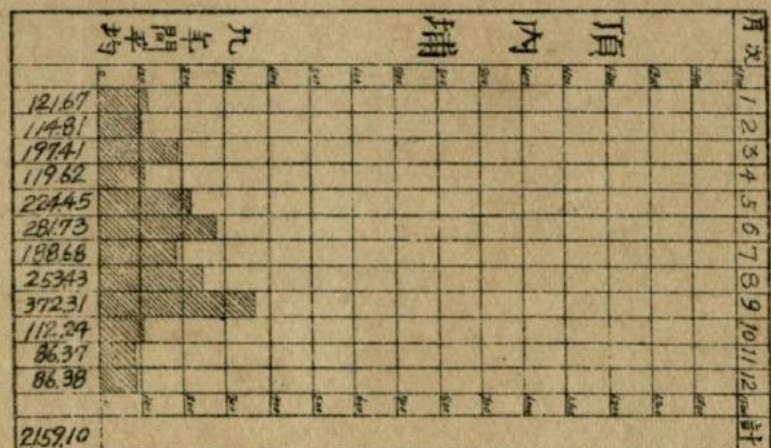
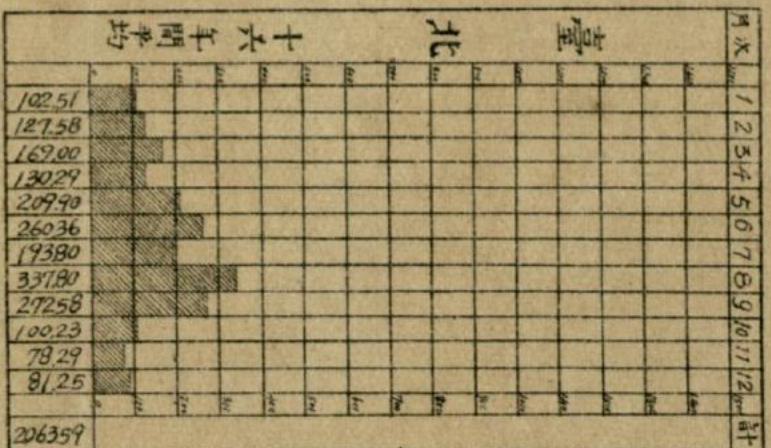
淡水河洪水調查附圖目錄	
第一號	淡水河流域內雨量圖表
第二號	屈尺(新店川筋)流量表
第三號	淡水河筋高潮位表一
第四號	全上二
第五號	淡水河筋洪水位表一
第六號	全上二
第七號	全上三
第八號	淡水河各處洪水位連絡線圖
第九號	淡水河筋大稻埕附近橫断面
	對照圖
第十號	關渡附近平面圖及十萬分一淡水河平面圖
第十一號	台北市街洪水浸水圖

枚

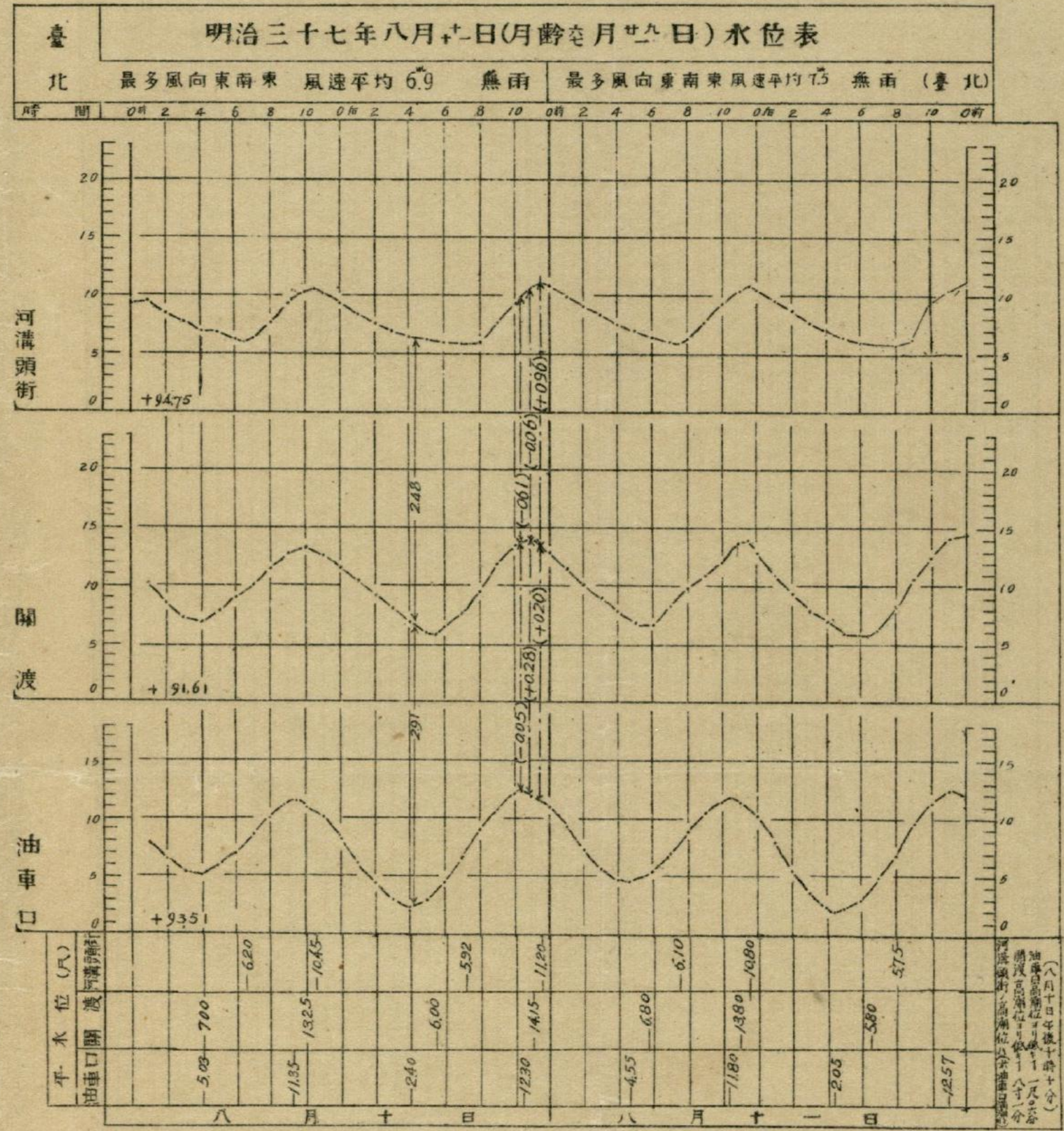
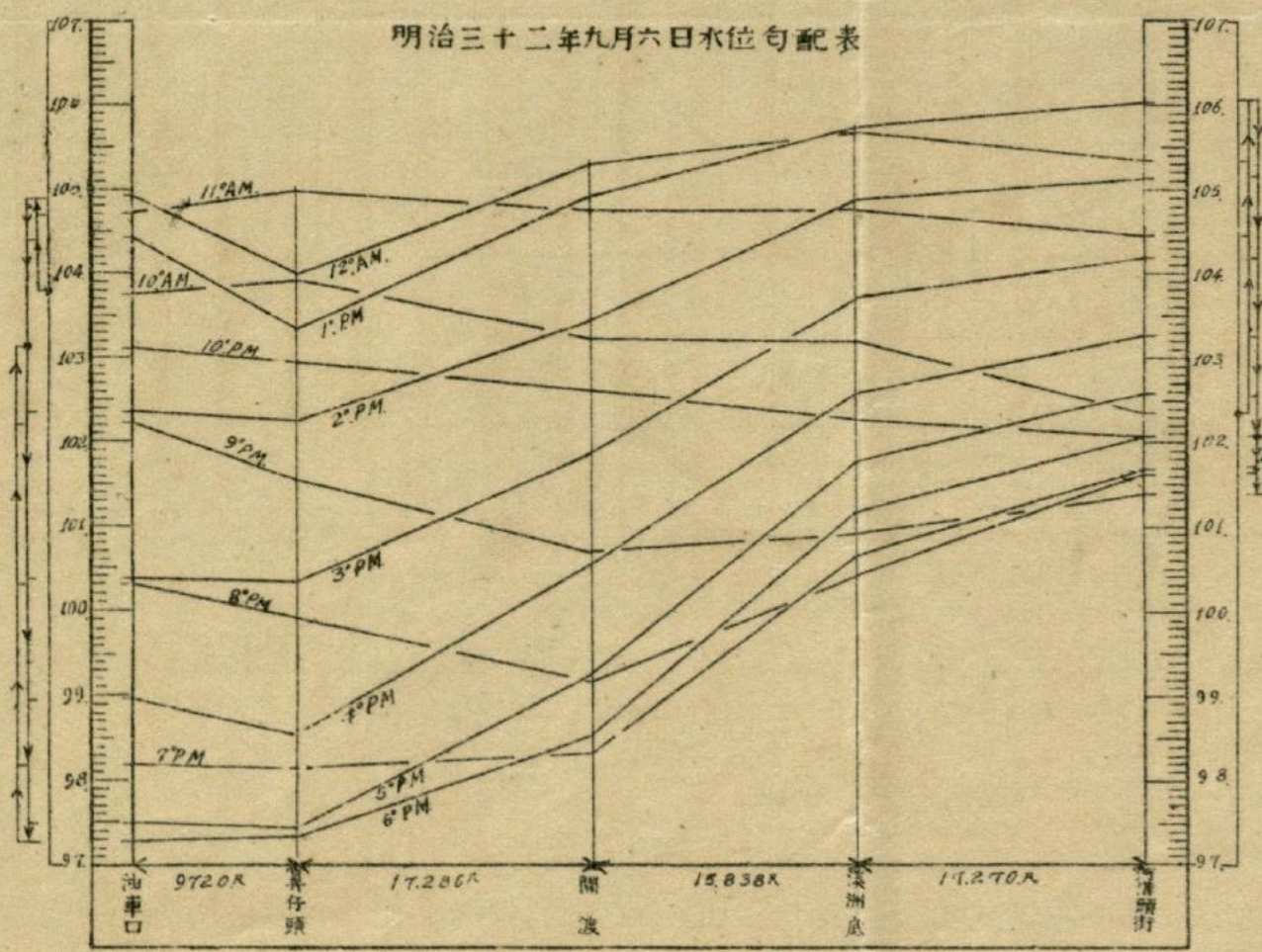
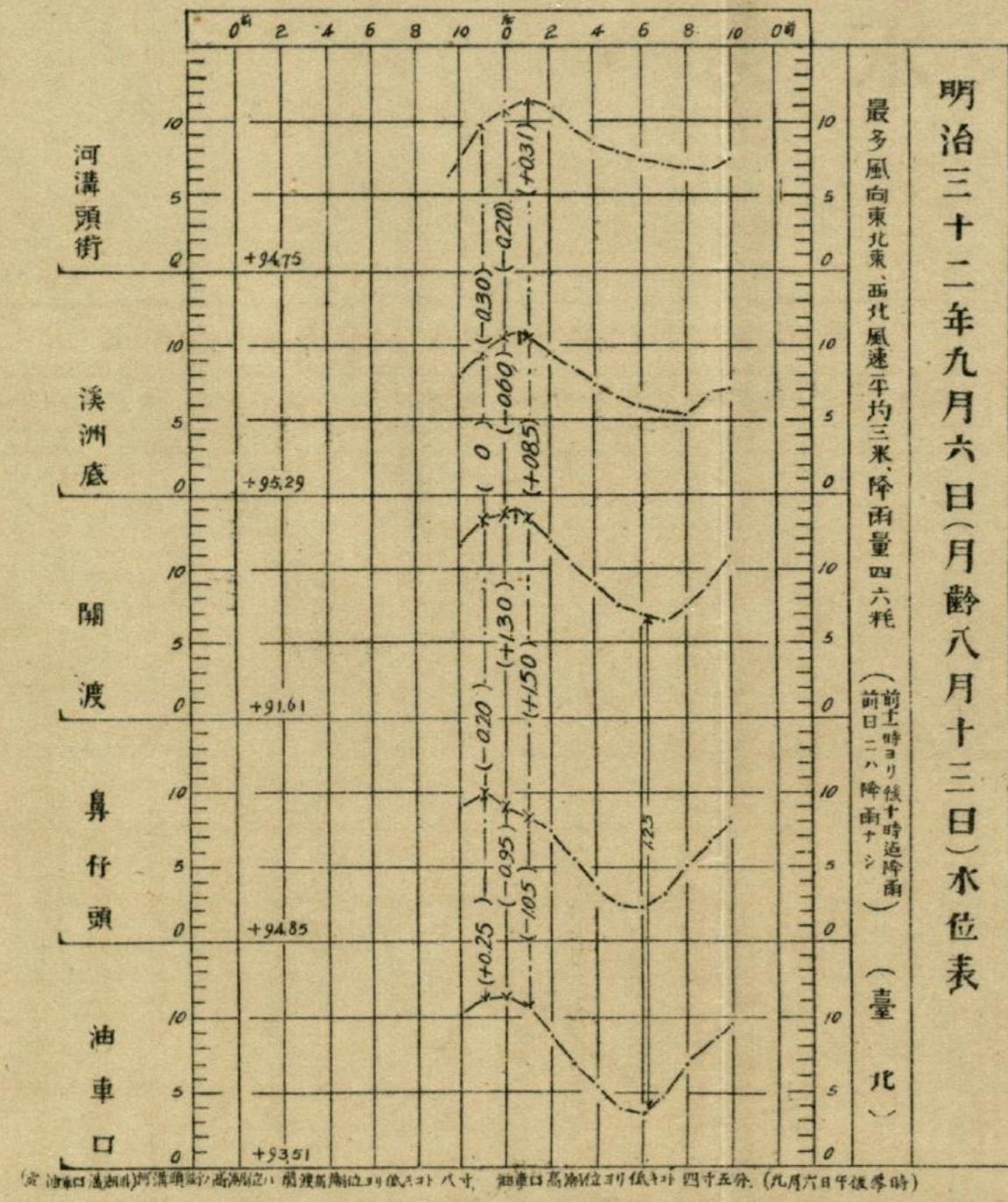
淡水河洪水調查附圖第一號

淡水河流域內雨量圖表

備考
雨量統計單位八總之大正九年ヨリ起算
雨量ハ耗ミ以テ單位トス



淡水河筋高潮位表 (一)



備考

此ノ表ニ記載セルハ近年天候靜穩且平水ニシテ高潮セル場合ヲ撰ミ摘記セルモノニシテ泥尻ニ於ケル高潮ニ如何ニ台北ニ影響ヲ及ボスヤヲ知ル用ニ供ス

各所量水標基點ハ七地調査局水準基面ヲ百トシ之ヲ計上セリ

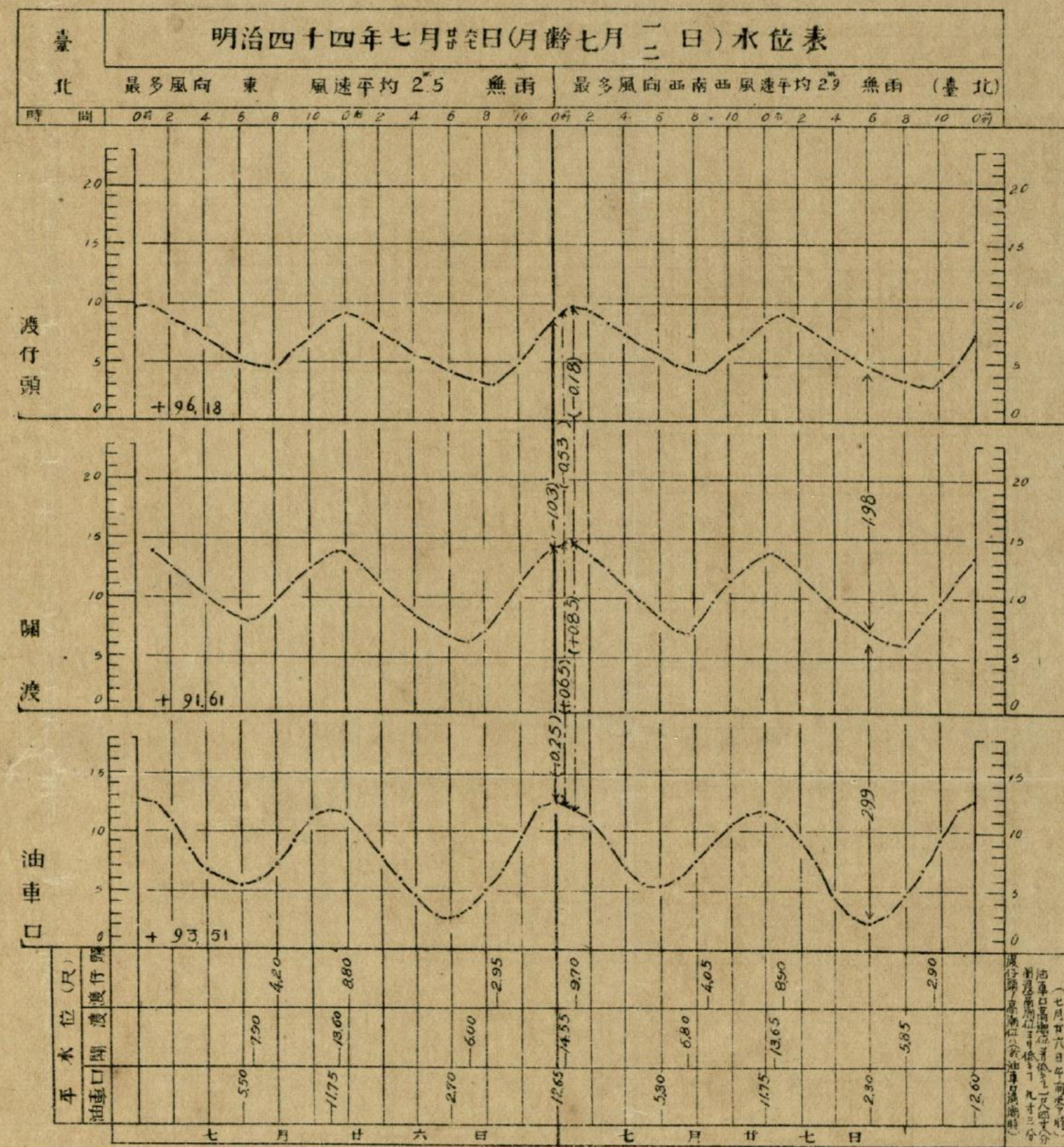
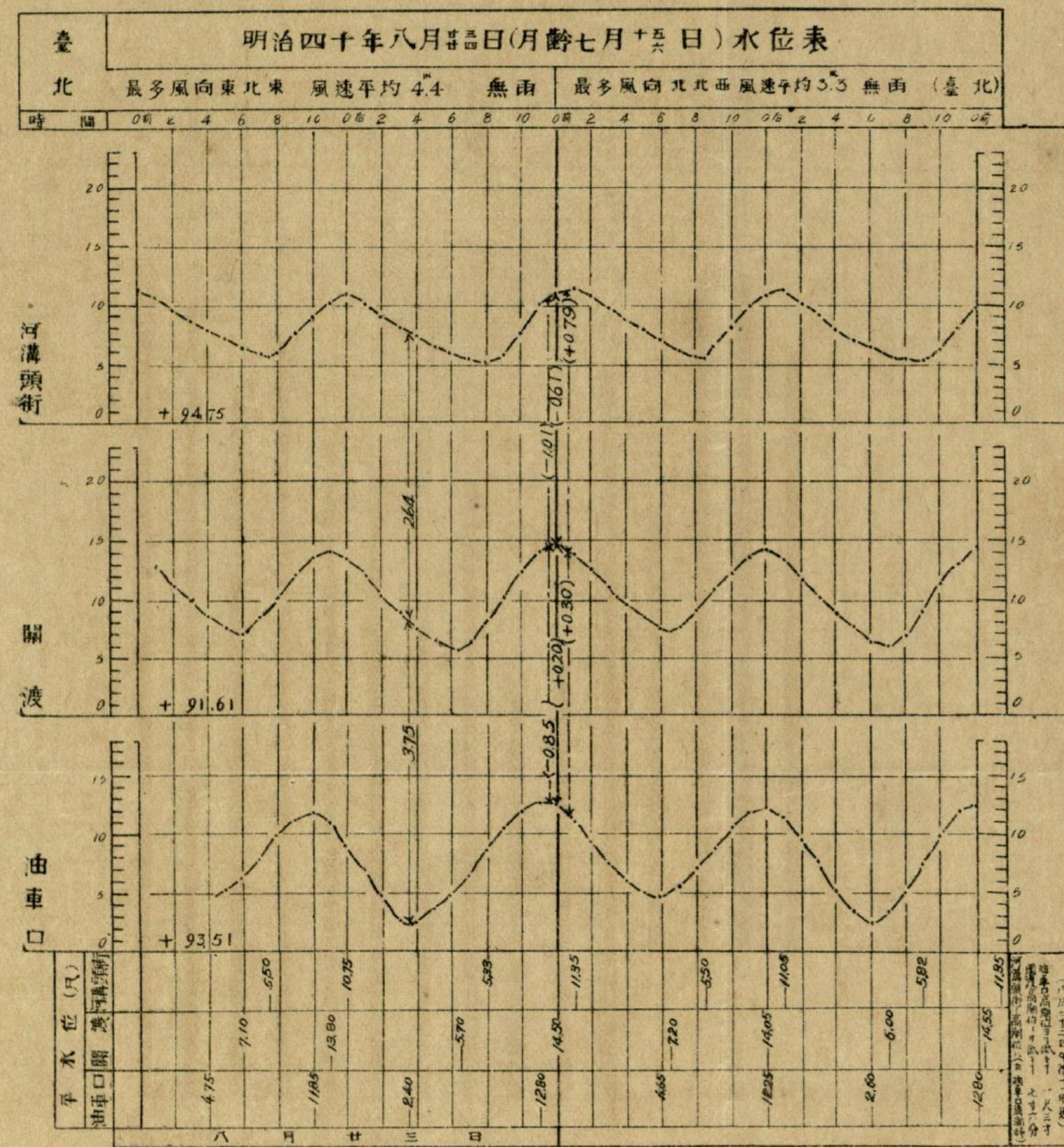
油車口關渡間ノ平水時流心距離 二万七千尺

關渡鼻仔頭間ノ平水時流心距離 二万五千六十八尺

關渡河溝頭街間ノ平水時流心距離 三万三千百〇八尺

各水位ノ倍差ハ水位ノ間ニ記入シ上流ノ高キモノヲ(+トシ下流ノ高キモノヲ(-トス

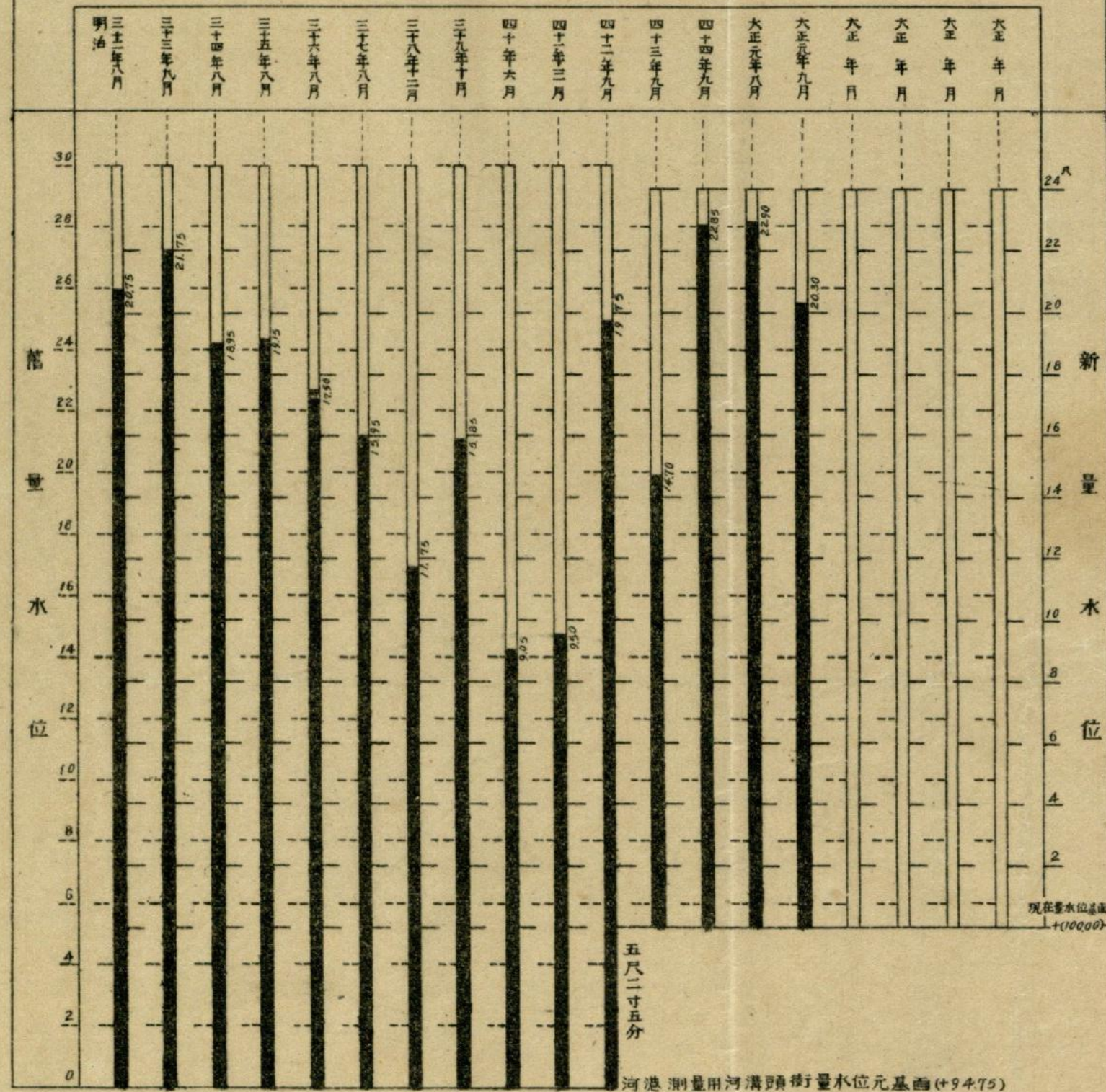
淡水河筋高潮位表 (二)



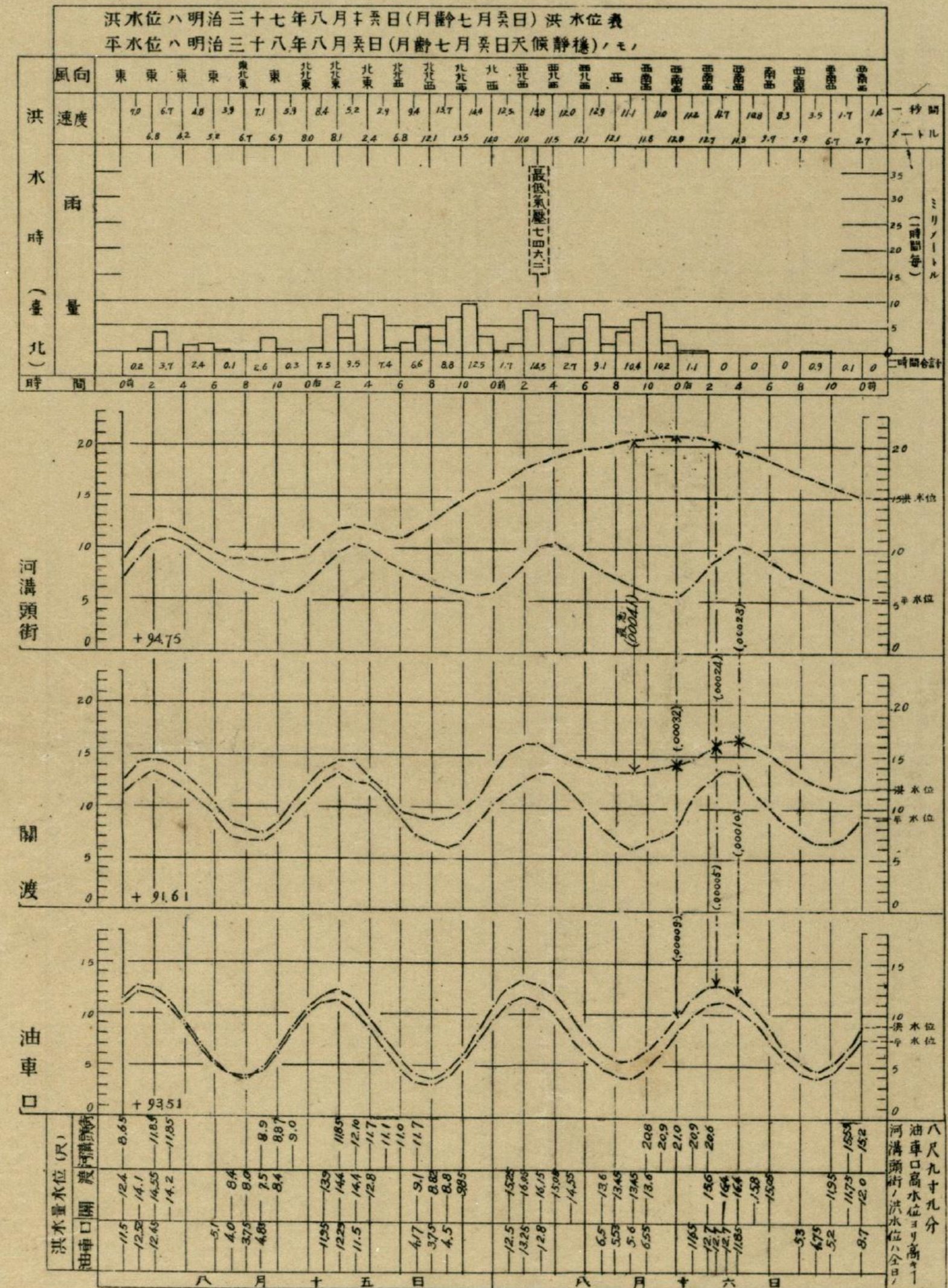
淡水河筋洪水位表 (一)

淡水河最高水位表

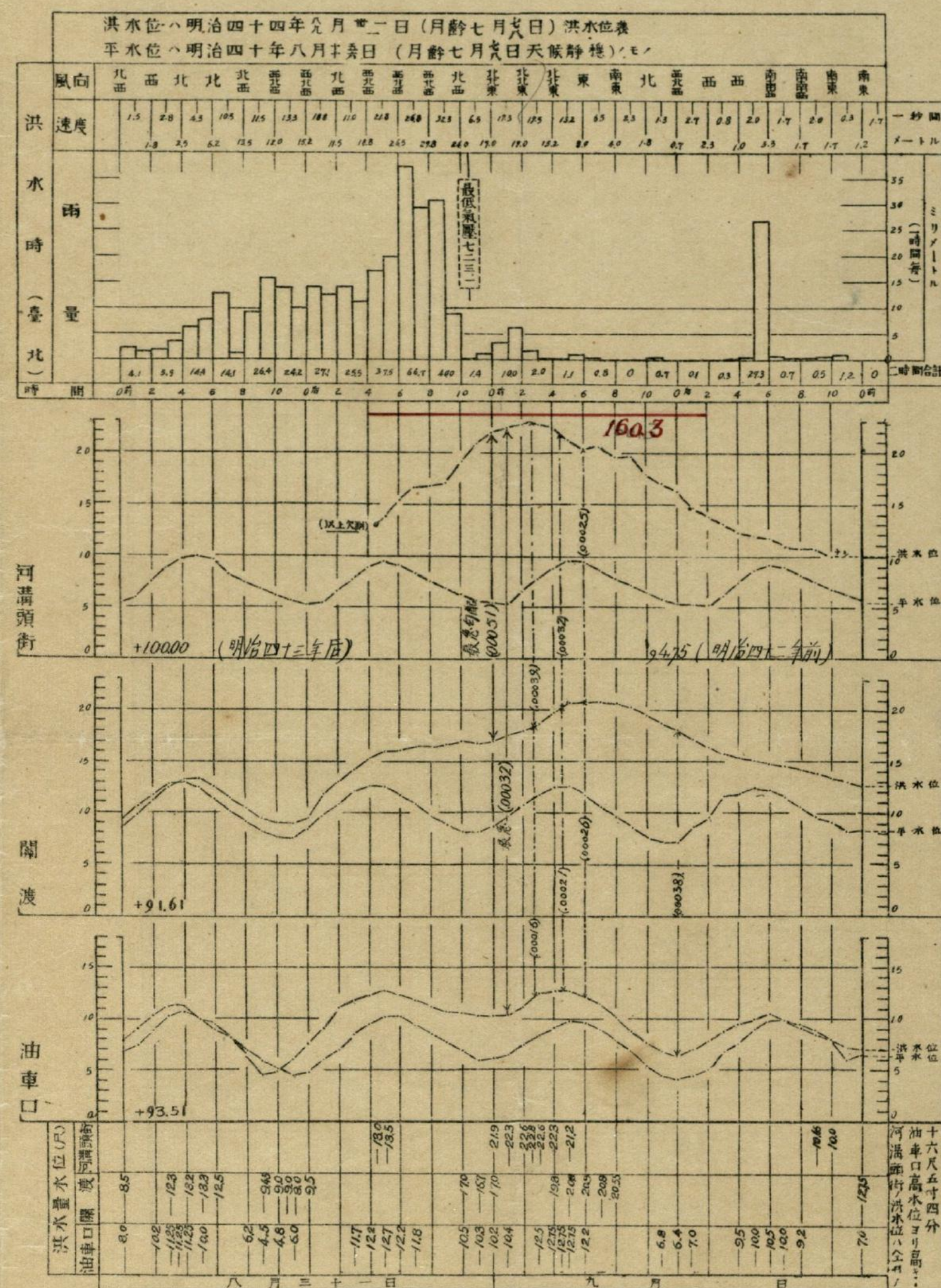
(臺北河溝頭街)



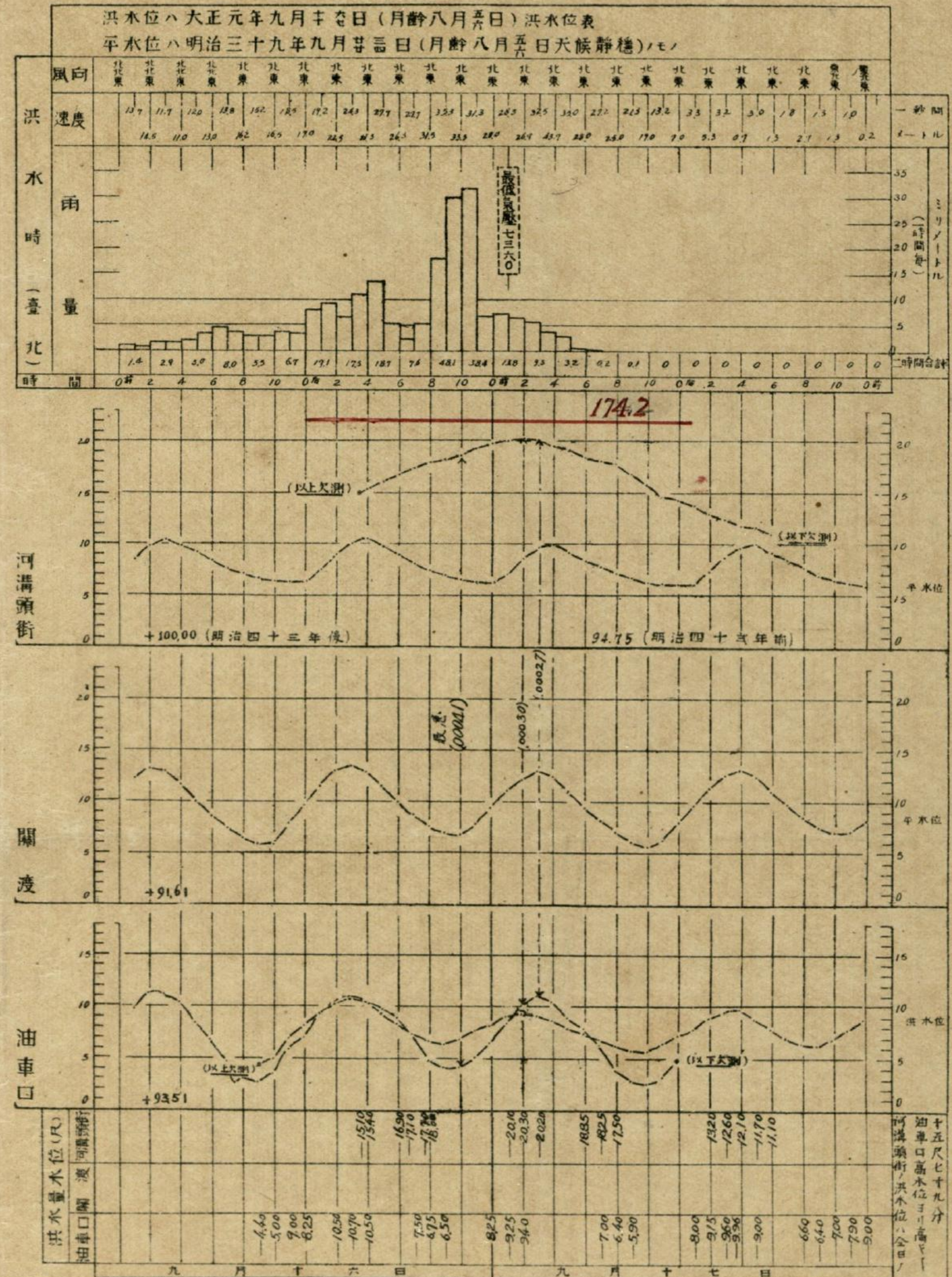
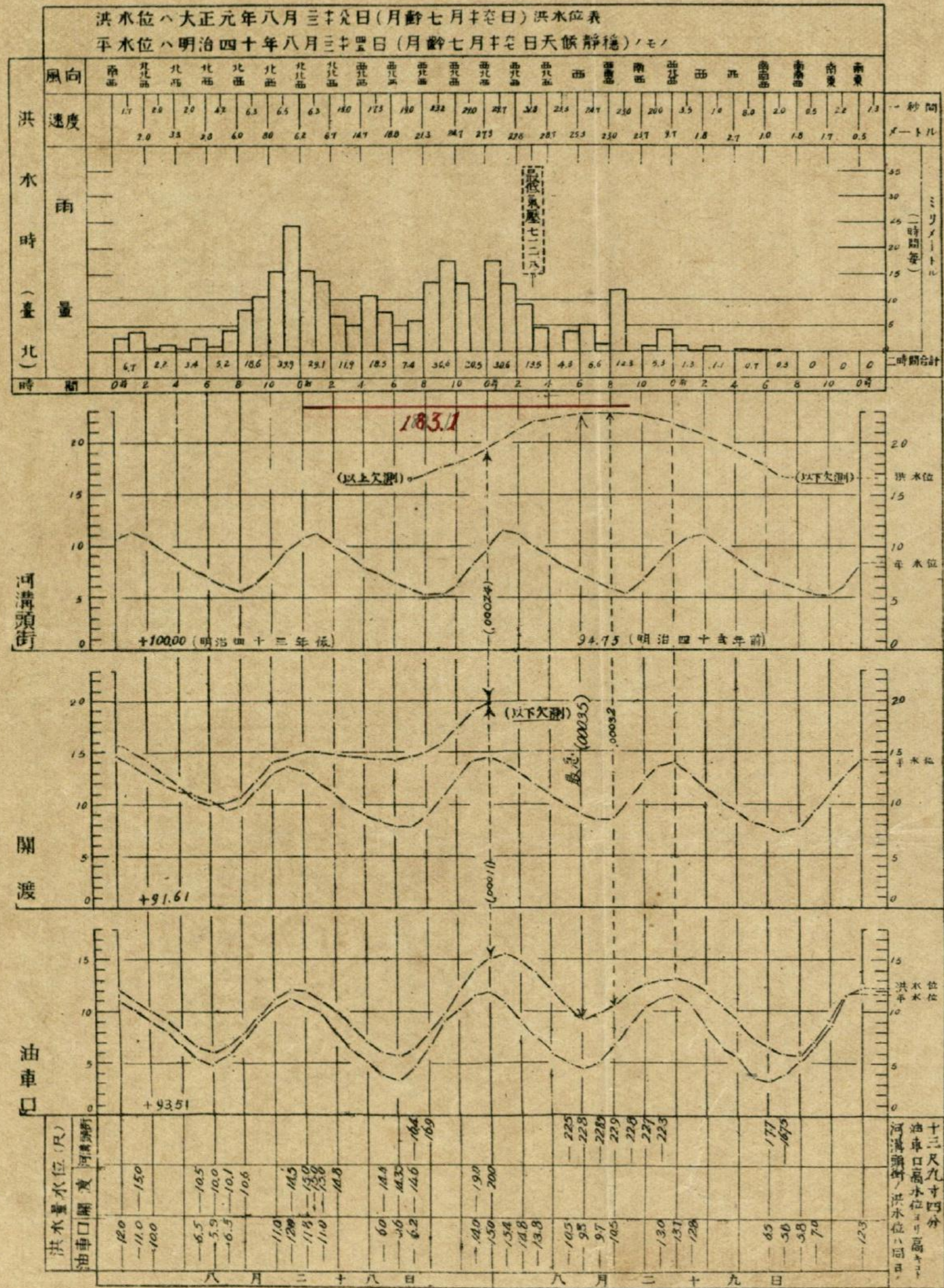
備考 洪水位ハ記録ノ正シク残り居リ後日ノ参考ニ供スヘキモノヲ取り之ヲ記載セリ
各所洪水位ノ下ニ各水位ノ附記セルハ天候靜穏ナド其水位ハ略其ノ如クナリ得シト比較ヲ示セルモノナリ
各所量水標基点高ハ土地調査衙水準基點ヲ百メートルニテ之ヲ計上セリ
油壱口開閘前ノ洪水時流心距離ハ二万五千九百二十尺トス
開閘河漢頭街開ノ洪水時流心距離ハ三万六千六百八十尺トス
水前勾配開水位間ニテ之ヲ記ス

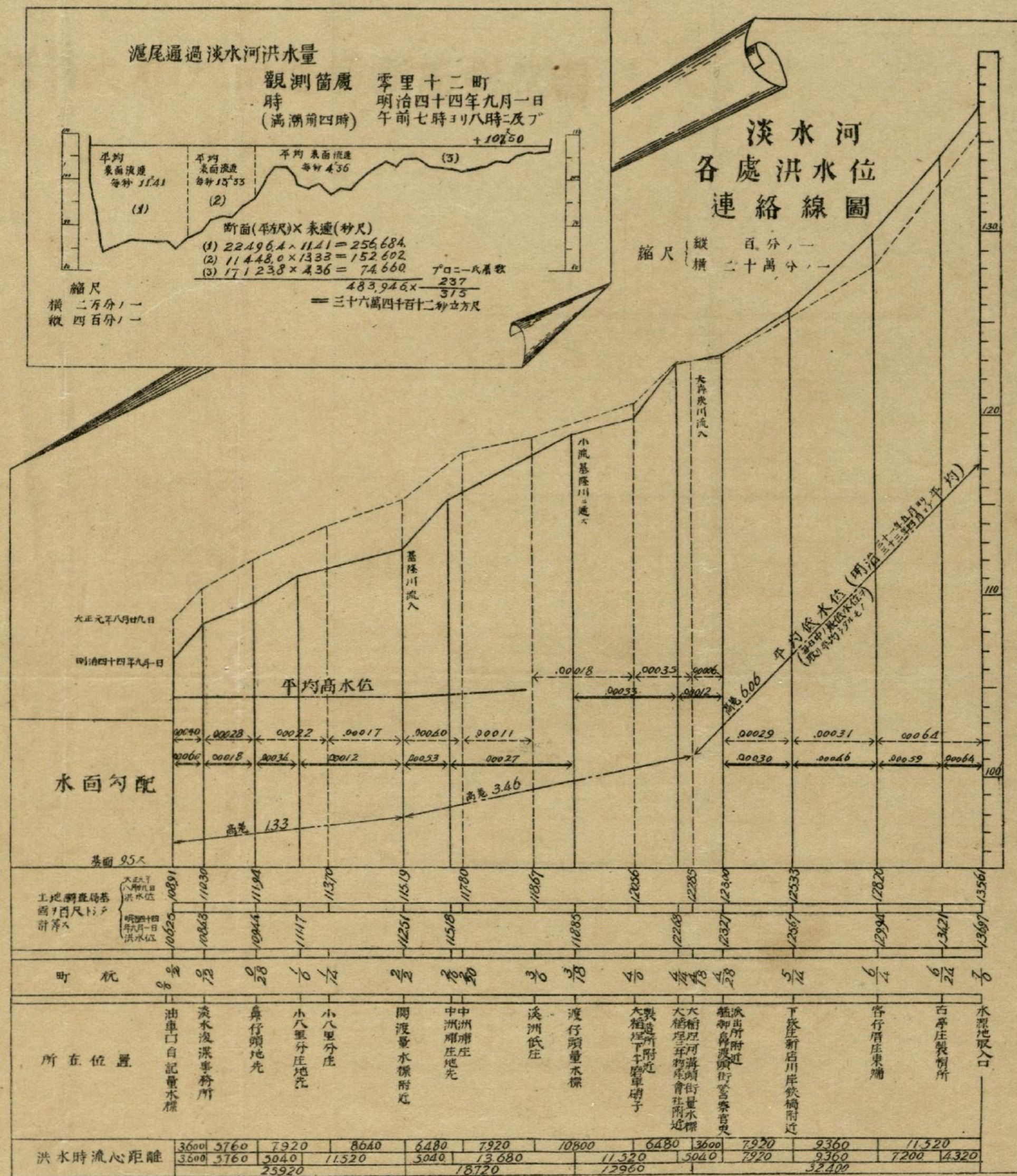
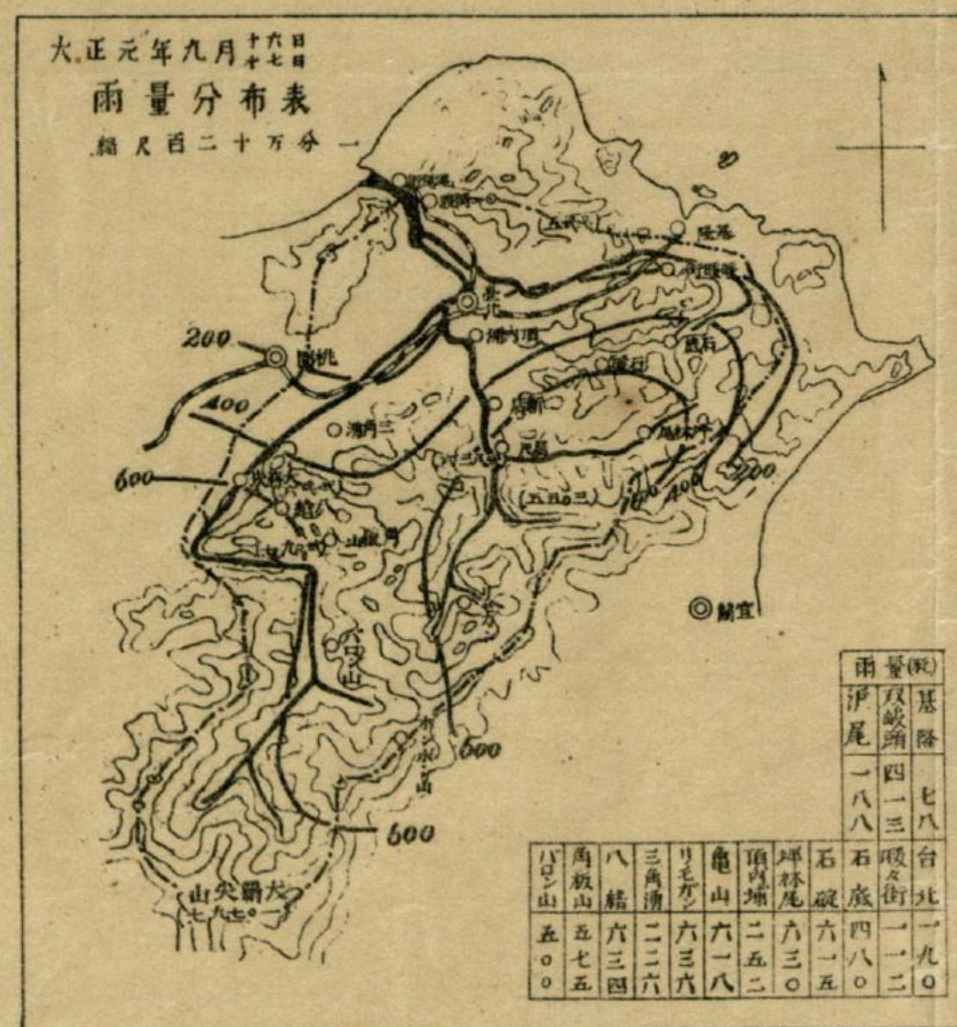
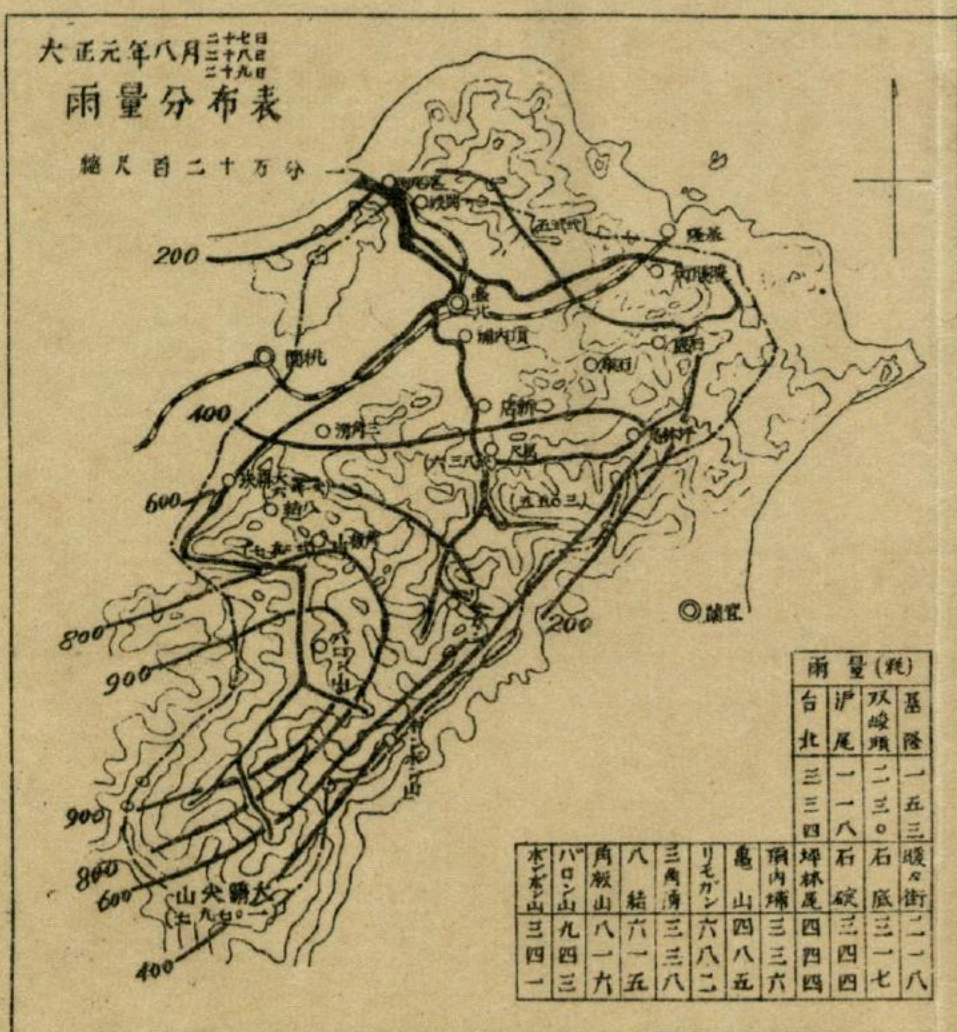


淡水河洪水調查附圖第六號



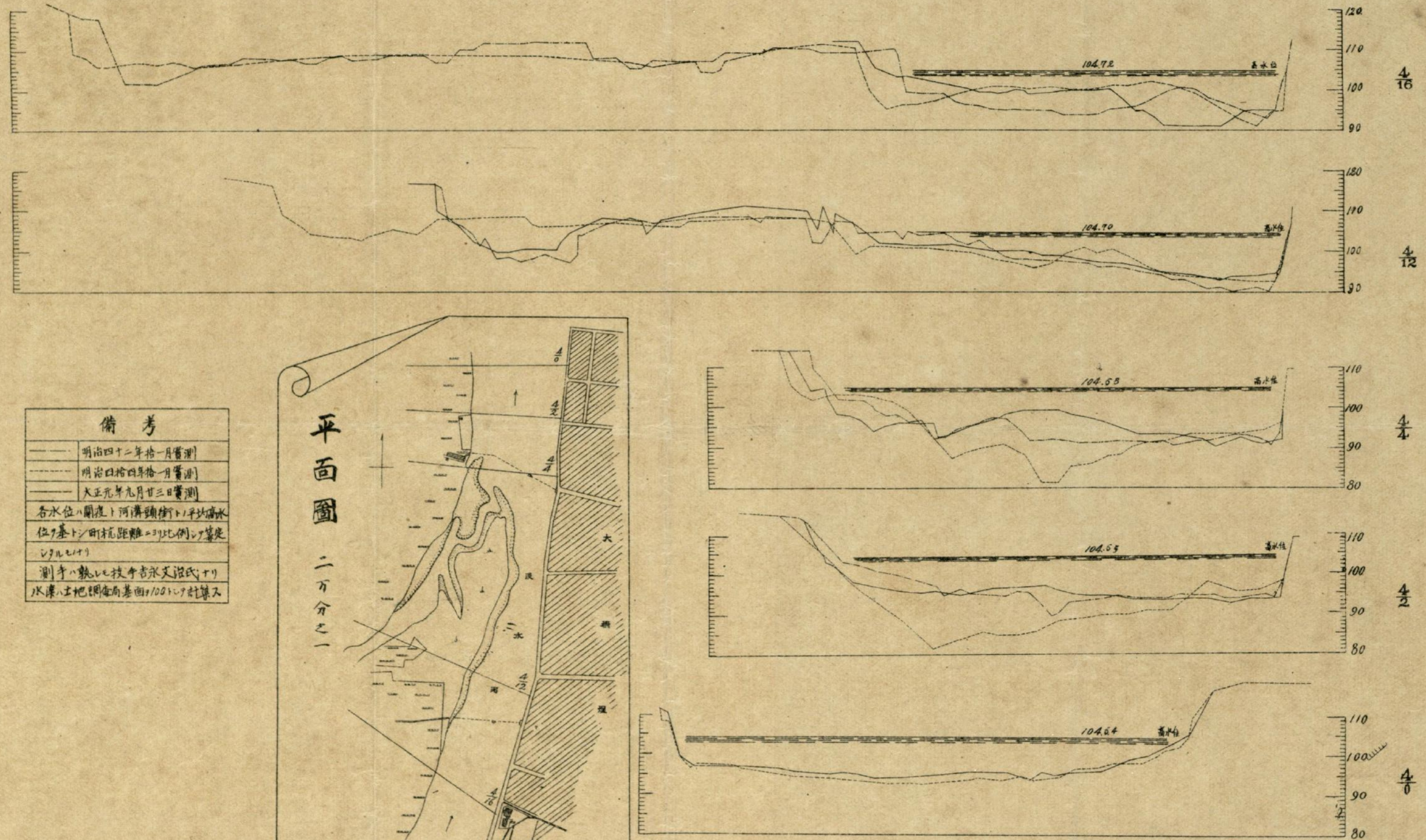
淡水河筋洪水水位表 (三)

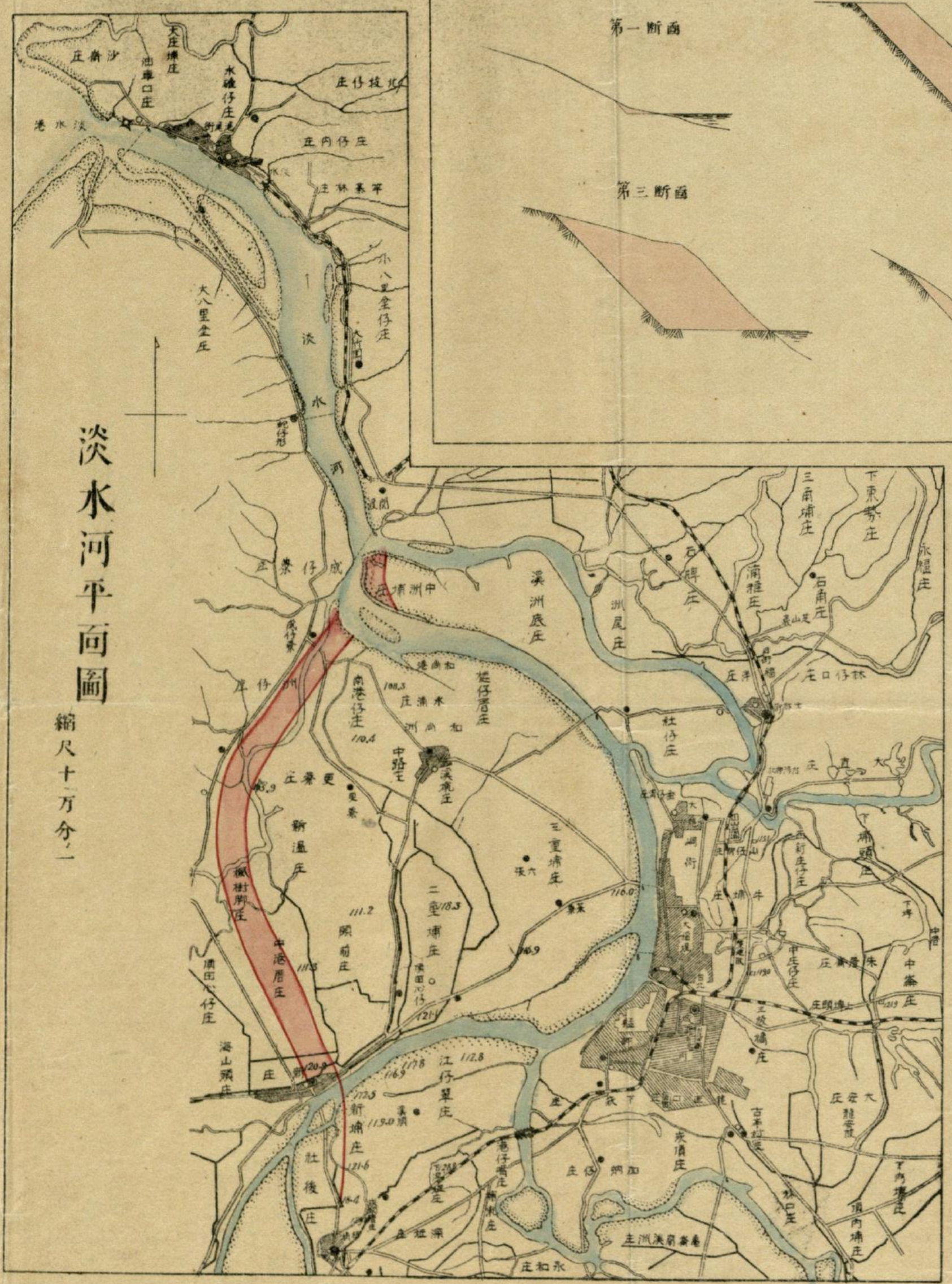
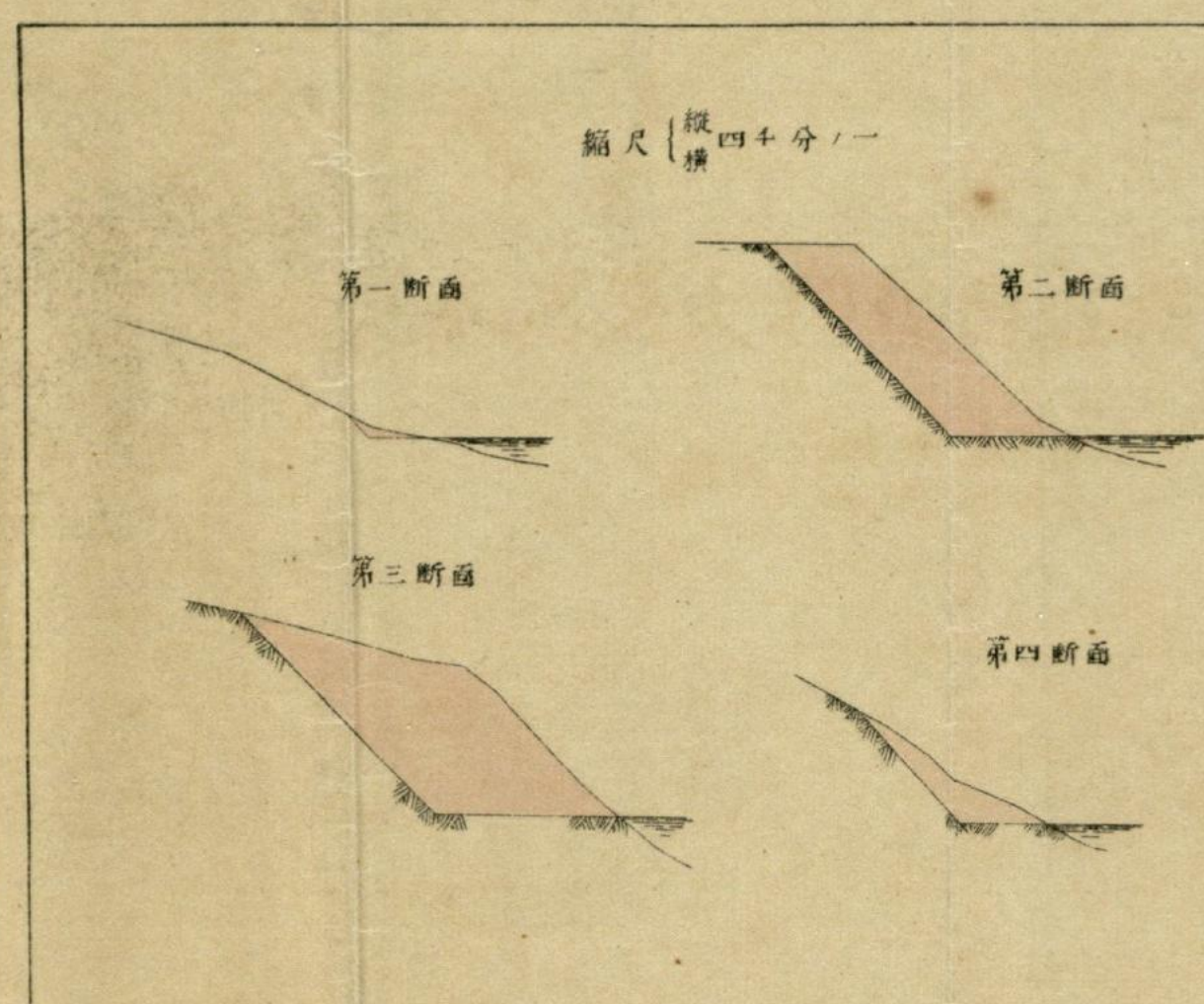
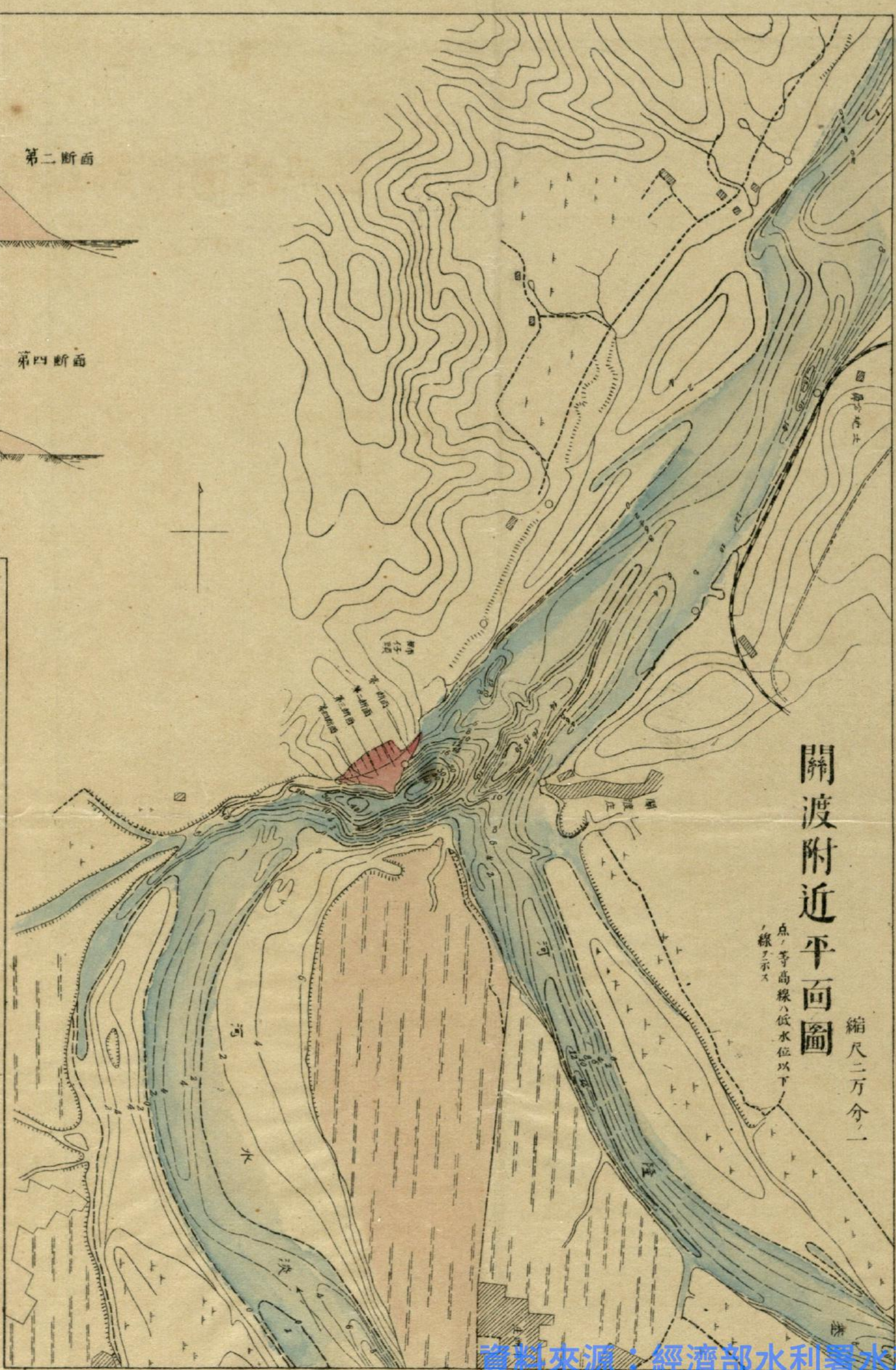




淡水河筋大稻埕附近橫斷面對照圖

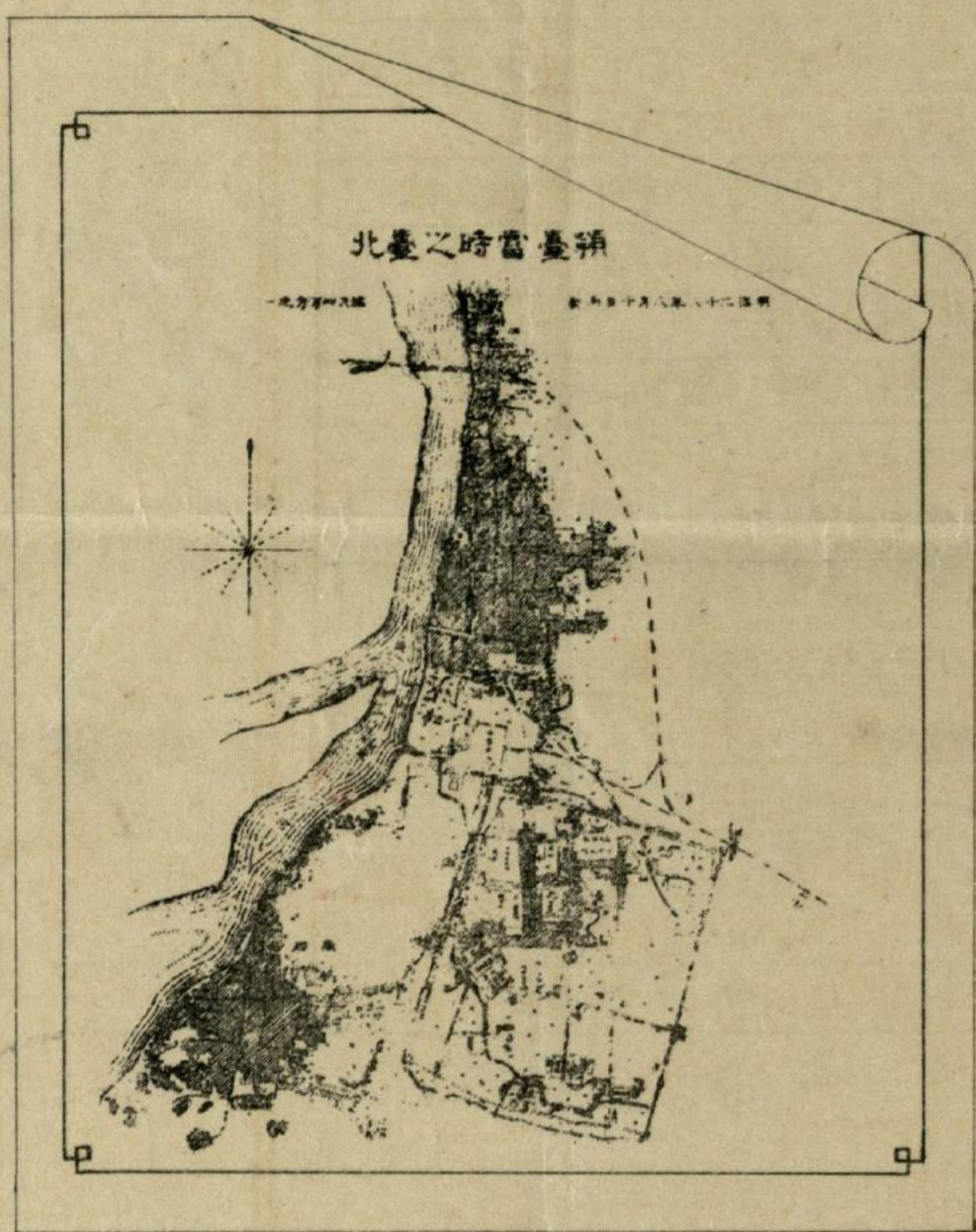
縮尺 橫線 四千分之一
縱線 四百分之一



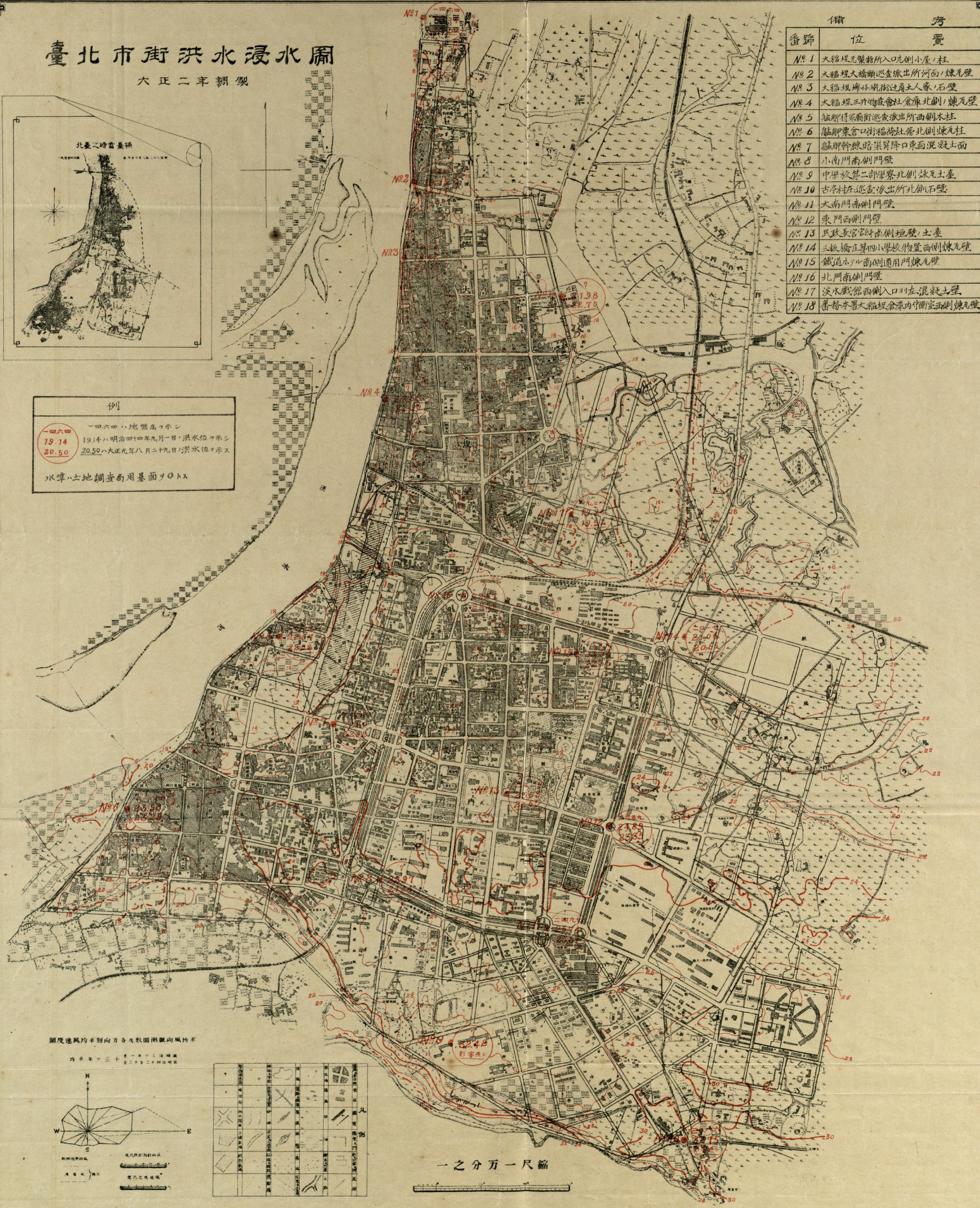


臺北市街洪水浸水圖

大正二年製



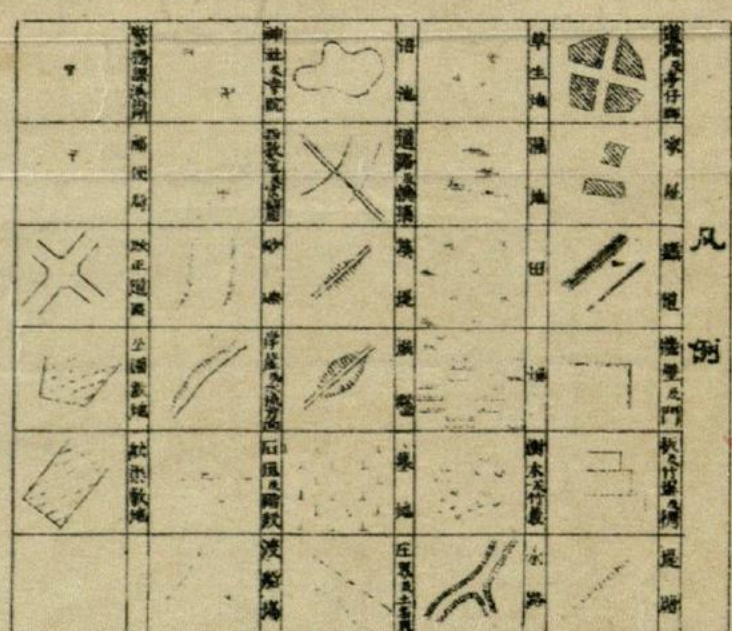
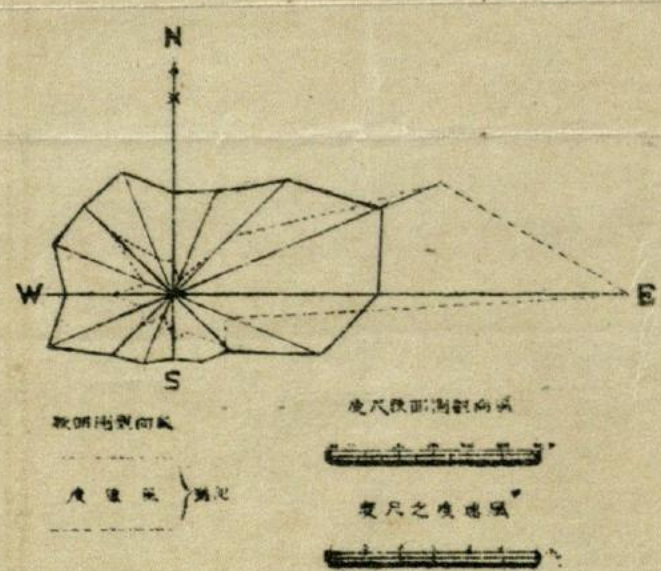
例
一四六四ハ地盤高ヲ示シ
19.14ハ明治四十四年九月一日ノ洪水位ヲ示シ
20.50ハ大正元年八月二十九日ノ洪水位ヲ示ス
水準ハ土地調査局用基面ヲ示ス



番	位	考
Nº 1	大稻埕元雙糖所入口左側小屋ノ柱	
Nº 2	大稻埕大橋頭巡查派出所河面ノ煉瓦壁	
Nº 3	大稻埕橋仔頭街通角土人家ノ石壁	
Nº 4	大稻埕三才物產會社倉庫北側ノ煉瓦壁	
Nº 5	龍脚街東口街福裕社舊北側煉瓦柱	
Nº 6	龍脚街東口街福裕社舊北側煉瓦柱	
Nº 7	龍脚街東口街福裕社舊北側煉瓦柱	
Nº 8	小南門南側門壁	
Nº 9	中學校第二部警察北側煉瓦土臺	
Nº 10	古亭村左巡查派出所北側石壁	
Nº 11	大南門南側門壁	
Nº 12	東門西側門壁	
Nº 13	民政長官官邸南側垣壁ノ土臺	
Nº 14	三板橋庄第四小學校物置西側煉瓦壁	
Nº 15	鐵道ハル南側通用門煉瓦壁	
Nº 16	北門南側門壁	
Nº 17	淡水戲館西側入口ノ左混泥土壁	
Nº 18	番務本署大稻埕倉庫內中衛室西側煉瓦壁	

圖度速風均平則向方各度數圖測觀向風均平

均平年々二十 月一年十三 月二十二年四十四



一之分万一尺縮

120